



崩落した3月

高橋親夫

(私の体験した東日本大震災 2011.3.11 ~ 2011.4.12)





崩落した3月

高橋親夫

(私の体験した東日本大震災 2011.3.11～2011.4.12)

はじめに

これまでの私の生涯で遭遇した最大の自然災害である東日本大震災は、発生から6年が過ぎました。復興事業と共に被災地の景観はすっかり変わってしまい、被災した人たちは新しい土地での新しい生活が既に始まっています。震災後に生まれた子どもたちは小学校に入学し、生々しく私たちの記憶にあるあの震災を体験として知りません。それは戦後生まれの私が戦争を話しとして聞くのと似ている感覚かもしれません。

私は70歳を間もなく迎えようとしています。老化や時間による記憶が更に劣化し、時間による風化がこれ以上進まないうちに、その貴重な体験をまとめておくことは、これから続いていく若い人たちへの私たちの義務なのかもしれません。

2011・3・11の震災発生から約1ヶ月間の私の暮らしの足取りを体験記としてまとめようと思いました。これらは後世に残すというよりはむしろ自分の備忘録程度のもですが、それが何かの機会に若い人たちの目に触れることがあれば、私の限らない悦びとなるでしょう。

妻からのアドバイスをきっかけに、つたない力を駆使し、あの時の記憶をたどっていきこうと思えました。

2017年5月

― 目次 ―

資料

・ はじめに	
・ 2011年3月11日のあの日が来るまで	1
・ 3月11日	2
・ 3月15日	12
・ 3月20日	18
・ 3月25日	24
・ 3月30日	30
・ 4月5日	36
・ 4月10日	41
・ あとがき	

・ 東日本大震災時の高砂市民センター―避難所運営概要	
・ 3月11日以降の避難及び高砂市民センター―避難所運営時系列	
・ 高砂市民センター―避難所運営状況図	1・2階平面図

2011年3月11日のあの日が来るまで

妻と私は宮城県建築士会宮城県支部の会員として、平成14年から始まった「宮城県沖地震に備えよう」わが家は地震に大丈夫?』という宮城県の事業である助成金付の耐震診断と耐震補強工事に携わっていました。当時2023年までに88%、2033年までに99%の確率で宮城県沖を震源とする大規模地震が発生すると予想されており、昭和56年の建築基準法改正以前の木造住宅が対象とされ、宮城県建築士会や宮城県建築事務所協会が事業をおこなっていました。もちろん津波は予想外で、これらに対する考慮はされておられません。耐震に対する考え方は建築界では大きな関心と高まりを持っていましたが、地域の避難所や運営については、それほど意識の高まりはありませんでした。なかでも福祉関係の避難についての行政の意識は更に低下していました。

私の津波の体験としては、1960年5月22日に発生したチリ地震の津波で、七北田川を30^{センチ}ほどの津波が遡っているのを少年の頃見えています。三陸地方では大きな被害がありました。地域では何ら被害は出ず、ここに住む私たちにはそれほど危機意識はありませんでした。2010年2月27日に発生したチリ地震による津波の際は、地域に避難指示が出ましたが、消防署や消防団の広報、行政側の広報が統一せず、又、高砂市民センターからの独断情報が流れ、津波らしいものもなかった。地域から情報提供に対する不満

が高まり、行政側や消防署が高砂地区連合会の会合の席で説明を求められ、その対応について追及される場面が2度ほどありました。このような状況の経過がありましたので、1年後の東日本大震災の前には、たとえ情報提供があつたとしても地域における危機意識が低かつたというのが私たちの実態でした。又、蒲生ではそれまでの防潮堤を嵩上げして、津波に備えていたという安心感もあつたのかもしれない。このような状況で私たちはあの日を迎えました。

3月11日（金）晴れのち夜雪

気温低下 最高6.2℃ 最低マイナス2.5℃

妻は9時から集会所で、地域の高齢者対象に介護予防活動の「向田クラブ」のひな祭りを開催に出かけた。私も町内会長として10時からそのお手伝い。向田クラブは多くの参加者があり、その中には中国人の女性で日舞を習っている人を師匠のK子さんが招き、日ごろの練習の成果を披露するなど、楽しいひと時となった。午前中に会は予定通り終了した。

金曜日の夜はいつも通り自宅で茶道教室の予定されていた。今夜のお楽しみテレビは韓国ドラマ「イ・サン」。まもなく終了するだろう。朝、妻の同級生のSさんから冷凍の品物が届きました。写真の御礼に贈ってくれたのでしょうか。私たちは昼食をとり、ひと息いれていました。

14時26分、三陸沖を震源とする大地震が発生。マグニチュード8.8。震度7。

その時私は事務所に、妻は自宅に居ました。外に出たら電柱が大きく揺れてしなりました。そのあと隣の電気関連会社の社長が外に出てきた直後に、地響きと共にさらに大きな揺れが来て、電線が切れ、地面に落ちました。悲鳴のような叫びが聞こえました。事務所の室内はすべての棚がたおれ、折り重なった書類や書籍で埋めつくされ、床は見えなくなっていました。ラジオもカメラも所在不明でした。

私は町内の安否確認のため徒歩で見回りを始めました。ま

ず初めに、みずき館という私のアパートの1階に障害者として一人暮らしをしている全介助の男性のところへ駆けつけました。荷物が寄りかかっていたが大丈夫であることを確認できました。又来るからと伝え、町内の区域を何度も避難するよう声掛けをしながら歩き回りました。みやぎ生協高砂駅前店の付近を通りかかると、社員から生協の屋上へ避難するよう話しかけられました。大津波警報が出ているのとこと。ラジオ放送によると津波はあと10〜30分後に襲来すると語りました。私は津波が来ること、生協の屋上に避難するようにと叫びながら再び町内を回り続けました。途中で町内会役員三人と会いました。彼らも町内を回っていたのです。津波が押し寄せてくるというので七北田川の堤防に上がってみました。津波は堤防の上からすぐ下まで来ていて、下流のたくさんの破壊物を浮かべ、ものすごい勢いで上流へと遡って流れていきました。こんな津波はこれまで見たことがありませんでした。行政が公表していたシミュレーションとは全く異なる、予想外のものでした。やがて津波は、引いていくのが見えました。南側の堀は住宅の敷地にまもなく流れ込もうとするほどの水位に達していました。町内の道路わきのU字溝の蓋の間からは黒い下水が噴き出し、やがて深いところでは膝まで水に浸かりました。

2度目に吹雪く中で見た光景は、下流から破壊された建物のたくさんの木材や家屋が上流へ流れていきました。このよ

うな津波の状況下でも七北田川に架かる産業道路の高砂大橋は、車の渋滞で動かなくなりました。

白鳥方面の状況を確認しようと、自転車道を歩いて、高砂中学校への通学路の堀の橋まで来たとき、数人の男性が騒いでいるのに気づき、どうしたのかと尋ねると、人が流されてきたので、助けようとして叫んでいました。何か長いものでもないかと堤防の法面を探していましたが、何もありません。私は堤防に上がってみましたが、眼鏡が濡れてよく見えません。「どこだ」と聞くと「よく見ろ」と怒鳴られました。七北田川の岸からだいぶ離れた場所に、男性が木材の上に乗って上流へ流されていくところでした。助けようがなかったので、すぐに引き返し、宮城野消防署高砂分署へ小走りで行きました。この件を告げると署員は、既に報告を受けてはいませんが、増水のため消防車が近づけない状況だと言われました。妻はみずき館の男性のところへ行つて、避難を促していました。町内の大部分の人たちが高砂駅前生協の屋上に避難していました。気温がだいぶ下がっており、寒かった。屋上には埋蔵文化財の職員もいて、石油ストーブを持ち込むなど対応していました。

情報収集のため、徒歩で地域の避難所となっている高砂小学校へ向かいました。途中、北福室第一町内会会長の佐藤忠男さんと出会い、東北厚生年金病院の2階を避難所として許可をいただき、避難を促しているとの情報を得ることが出来

ました。震災前は、東北年金病院は避難者を受け入れられないということになっていました。震災直後も、薬の容器が壊れ、薬剤のにおいが充満しており、病院はやはり避難者の受け入れは行っていないとの情報を得ていました。

途中、国道45号線は信号の電気が消え、仙台方面から続々と歩いてくる人たちが続いていました。避難民かと思つて尋ねると、勤務先から自宅に帰る人たちでした。車は渋滞していました。あとで聞いた話ですが、津波を見るために道路に駐車している車があり、渋滞をさらにひどくしている原因になっているとのことですが、それが事実であったかどうかはわかりません。

高砂小学校へ向かう途中、家屋の損傷が激しい場所がたくさんありました。学校近くの雲洞院の山門が道路に倒壊していました。学校に到着すると、体育館に避難する周辺の町内の人たちが続々と押しかけており、教頭先生に避難者を受け入れるかどうかを質すと、「来た者は受け入れます」との回答を得ましたが、まもなく体育館は避難者で一杯になる事は明らかでした。

帰りに、東北厚生年金病院内の状況を確認のため立ち寄り、前面道路は冠水し、入りにくい状態になっていました。2階の暗い廊下のベンチに腰を下ろし、たくさん避難している人たちの姿がありました。顔見知りの人たちもたくさんいました。病院は収容するスペースが限られていることがわ

かりました。

高砂駅前生協の屋上に戻る途中、遠くから重度の障害の人が車椅子で避難していくのに出会いました。みずき館の男性でした。消防団に介助され、ヘルパーさんがついての移動中でした。後に妻から聞いたのですが、道路が冠水してきたので避難できなくなると思い、避難を促したのですが、本人は避難に難色を示していました。消防署に救助を求め、消防団に手伝いをもらい、東北厚生年金病院へ避難していく途中でした。これは適切な判断でした。その後途中の道路は下水の逆流で吹き出し、やがて膝まで水に浸かりました。妻からの要請で救助に向かった消防車は途中で水に浸かり動けなくなっていました。

事務所の周辺、自宅の周辺、小幡多利治宅や高橋武志宅周辺、下山善一宅の南側道路一帯は、膝まで浸水し、家屋が孤立しました。それでも躊躇せず、自宅で過ごした人たちが何人もいました。

みやぎ生協高砂駅前店の屋上に戻ってみると、テントが立てられ、周りをブルーシートで囲んだ区分がいくつもあり、そこで石油ストーブを囲み、寒風を凌いでいました。海の方を見ると、石油プラントの方面が赤くなっていました。続く蒲生方面でも赤くなっていて、避難してきた人たちが、あちこちで火災が発生していると話しているのが聞こえました。生協からはカップ麺などの無償提供などがあり、避難者への

温かい支援がなされました。

こんな寒い夜を屋上で過ごすのも大変なので、生協の建物内部へ入れてもらえないかどうか確認したところ、建物内は危険なので内部への受け入れは出来ないとの回答でした。それではと女性、高齢者、子供たちを優先的に東北厚生年金病院へ避難するよう勧めました。その後生協は男性も病院の方へ避難するよう促し、扉を閉めてしまいました。乗用車で避難している人たちを残して、私たちも病院へ向かいました。病院は廊下だけでしたが、2階はもちろん、5階も解放し、その他の階にも避難民の人たちがいました。たくさんの避難した人たちが溢れ、廊下に毛布をかぶって両側のベンチや床に足の踏み場のないほど横たわっていました。そこでたくさんの顔見知りの人たちと出会い、無事を確認しました。それまで、町内の人たちが避難している生協の屋上、病院、高砂市民センターを何度も確認して歩き回りました。この3か所が町内の人たちの主な避難所であることが分かったからです。病院では毛布が支給されました。その夜、妻と私は病院の5階の廊下で一夜を過ごしました。強い余震は何度も続き、津波も繰り返し川を遡っていきました。

利府の会社に勤務している次女の夫や多賀城の病院に勤務している次女とその保育所の孫娘の安否はまだ確認できませんでした。



2011.3.11.16 : 16 高砂大橋から上流を見る



まもなく雪が降り始めた



2011.3.11 事務所北道路の U 字溝から海水が吹き上がる



2011.3.11 東北厚生年金病院北側冠水



2011.3.11 福田町雲洞院の山門が倒壊



2011.3.11 高砂小学校体育館



2011.3.11 福田町横丁付近 前方国道 45 号線



2011.3.11 高砂大橋の北西たもと



2011.3.11 高砂大橋より北方向歩道 右交通渋滞 左放置された自転車



2011.3.11 高砂大橋右岸と産業道路交差部



2011.3.11 七北田川を遡上する津波 砂押右岸、中央が福田町郵便局



福来昭男さんからの提供写真

3月12日(土) 快晴 最高8.8℃ 最低マイナス1.1℃

〔東日本大地震。震度7沿岸に大津波。M8.8国内最大死者多数。福島原発冷却に危機。〕(朝日新聞見出し)

東北厚生年金病院の廊下で一夜を明かし、5時起床。明るくなりかけた堤防に上がり、津波の状況を見に行きました。徒歩で堤防を白鳥方面へ進みました。高砂中学校の校庭にはたくさんの乗用車があり、校庭は一面水浸しで、学校の周辺も同様でした。たくさんの避難者を収容していることが分かりました。昨日発生した仙台港方面の火災はまだ鎮火していませんでした。今も東の空が赤く染まり、煙を高く上げていました。中学校正門に来たとき、先ほどから下流の方で静かで不気味な音が聞こえてきます。その方向を見ると、灰色のものが遠くに見えました。まもなく津波が近づいてくるのが分かりました。何段にもわたって私の前を上流に向かって過ぎていくのが見えました。時計を見ると5時15分。薄気味悪くなり、様子を見ていた数人も上流の元来た道へと引き換えし戻って行きました。

少し時間が経過した後、私は再び白鳥方面へ進んでいきました。白鳥団地は約1m×1.5mほど住宅の敷地が冠水したようです。まだ道路や敷地は水に浸かったままでした。たくさんの漂流物が散乱していました。やがて親戚の地元工務店に達しました。敷地には車で入れますが、奥までは冠水し、進入できません。自宅の玄関の扉が開いていたので覗いてみ

ると、上がり框との段差5mmほどで辛うじて床上まで水が上がらない状態になっていました。檻の中の犬が一匹私に気づき吠えました。よくあの水の中で生きていたものだと思います。

白鳥団地の入り口の坂の途中まで水が上がリ、山本屋という店では水が引いた前の道路の清掃をしていました。その奥はまだ冠水状態でした。東側の道路は流れてきた数個のコンテナが道を塞いでいました。

再び病院へ引き返す途中、工務店の従業員と出会い、見た状況を伝えました。病院に避難している工務店の奥さんと娘さんに見てきたことを報告しました。奥さんは喜んで、犬がもう一匹いなかったかと尋ねられましたが、それは確認できなかったことを話しました。

病院の東側の敷地に駐車していた車の脇で知人と話をしていましたら、同じ町内の親しい知人で、長男が私の次女と同級生のお母さんでもある同世代の女性が、私の方に近寄ってきて、「うちのお父さんが帰ってこないの」と話し始めました。昨日、地震発生後に避難するよう町内を回って呼びかけて歩いた時に、ご夫妻を見かけていました。何事かと怪訝に思いながら話を聞いてみると、地震直後、第二の職場である会社へ向かったのだとの事。会社は岡田にあり、大地震が発生した際には、会社に集合するという決め事があり、出かけたのだと語りました。探しに行ってみたが、鍋沼、新浜

方面は水が引かず、それ以上どうにもならなかったと話ししました。子供たちも県外からこちらへ向かっている途中だと言いました。昨日見かけた元気な人がこのようになるなんて、とても信じられない何とも言いようのない話でした。

自宅付近の排水溝から噴き出した水は引き、車庫にあるシビックを見ると、床上まで浸水したことが分かりました。エンジンを開始すると、かかりましたので一安心しました。断水していなかったのも、フロアーマットを外し、内部を洗い、吸水するように新聞紙を敷きました。下水が噴出したので周辺にはいつまでも臭気が漂っていました。

町内のローソン前で、蒲生町内会会長で連合会会長の片桐さんたちが避難していくのと偶然にもばったりと出会いました。中野新町の状況を見て来たので、海際の蒲生が津波によつて深刻な被害を受けていることは明白でした。それにもまして元気な姿は驚きでした。蒲生の様子をうかがうと、「蒲生400戸は壊滅した」と語り、「安否確認に向かった町内会役員たち数人は帰ってこない。この近くに息子がいるので、そこに向かう途中で、そこから霞の目へ避難していくつもりだ」と語りました。

和田新田の叔父たち家族とは連絡が取れず、場所柄安否が確認できないので、午後現地に行ってみました。近づくにつれ、河川敷には流された家屋や木材などの多量のゴミとたくさん乗用車が散乱していました。堀にもおびただしいゴミ

とたくさん乗用車が様々な方向を向いて転がっていました。和田新田は惨憺たる状況でした。ただその光景に慄然としながら進んでいきました。中小路は入り口からたくさん破壊物が道を塞いでいました。右側には木倉が土台を上に向け転がっていました。壊れた水道管から水が噴き出していました。2階付近まで水が上がったようでした。すべてが破壊され、泥とゴミと水にまみれていました。叔父の自宅が間もなく見えるところまで来たとき、向こうから消防関係者のような人たちが来て、何のために来たのかと聞かれ、「親戚の安否を確認に来ました」と話してその場から引き返しました。状況から間違いなく、叔父の自宅も周囲の家屋同様破壊されたのだと分かりました。今日も町内の人たちの避難先を何度も回り、状況の把握に努めた一日でした。

その夜は自宅で休みたいと思いましたが、妻が不安がり、昨夜と同様東北厚生年金病院へと向かいました。朝、避難者名簿に記載しておきましたが、宿泊することを断られてしまい、自宅へ戻りました。昨日から一帯は停電でした。しばらく自宅の暗い中で過ごしていましたが、余震が続くので妻は不安が高まったのでしよう、とても一夜をここで過ごせないと訴え、高砂市民センターへ行くことにしました。体育館に入った時、和田新田の叔父たち家族に会うことが出来ました。話によると地震直後に避難先としてキリンビール仙台工場へ、その後自衛隊の車で鶴ヶ谷オープン病院へ、そして仙

台工業高校の体育館で一夜を過ごし、とても寒くて耐えられずここに来たのだと、これまでの経過を語りました。双方の無事を喜び合いました。こうして夜、私たちは高砂市民センターで一泊しました。

妻が次女と孫娘の安否が確認できたと語りました。それによりまずと次女の夫は妹が住んでいる塩釜の月見ヶ丘へ実家の両親と共に避難しているとのことでした。次女は砂押川の決壊で勤務先の病院は1階が水没し、孫娘の保育所も来年行く予定だった幼稚園も水没したとの話でした。次女は娘と病院で一泊し、翌日娘を連れて夫のいる月見ヶ丘へ行つたとの事。病院に通勤で使用していた乗用車は流出してしまったことを聞きました。

県外にいる長男、長女から妻に電話がありました。たまたま自宅に戻ったときに、アメリカの友人が電話をくれました。鎌倉の従弟の奥さん、千葉の私の妹からも安否確認の電話がありました。



2011.3.12 高砂中学校校門前の自転車道



2011.3.12 高砂中学校校庭



2011.3.12 高砂中学校



2011.3.12 高砂中学校



2011.3.12 高砂中学校から上流を見る 翌朝も津波来襲おさまらず



2011.3.12 中野白鳥 仙台港石油基地・蒲生火災おさまらず



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥



2011.3.12 中野白鳥付近



2011.3.12 和田新田



2011.3.12 和田新田



2011.3.12 和田新田



2011.3.12 和田新田



2011.3.12 和田新田



2011.3.12 和田新田から望む河川敷



2011.3.12 東北年金病院から海へ



2011.3.12 東北年金病院リハビリ棟



2011.3.12 東北年金病院リハビリ棟



2012.3.12 東北年金病院リハビリ棟



2011.3.12 東北年金病院リハビリ棟



2011.3.12 事務所



2011.3.12 自宅

3月13日(日) 晴れ 最高16.5℃ 最低マイナス0.5℃

「福島原発で爆発音 炉心溶融か、屋外で放射線 東北沿岸壊滅的、死者605 行方不明654 負傷者1,173」(朝日新聞見出し)

朝から高砂市民センターで避難所運営の支援を始めました。約900名の避難者を収容していました。各部屋はもちろん、廊下、ロビーまであらゆる場所に避難した人たちが毛布を敷いて休んでいました。既に市民センターには、入り口付近に4台の仮設トイレが設置してありました。次々と民間会社から食糧や飲み物、その他の支援物資が、突如として差し入れられてきました。事務所の窓口は避難者名簿がまだ整理されていなかったため、訪問者の対応に追われていました。次々と避難者が館内に入ってきました。事務所の職員は一人でこ舞いで、それはまるで野戦病院の様相を呈していました。

10時頃、町内会副会長の自宅を訪れ、副会長に「高砂市民センターで地域代表として避難所運営に当たることになるので、会長代理として町内の対応に当たっていただきたい」と状況を説明しお願いいたしました。私は以前から高砂市民センター祭り実行委員長としての任に当たっていましたので、市民センターの避難所運営に携わるのは自然の成り行きでもありました。

午後、副会長から昨日高砂小学校避難所の運営委員会の会合に当町内会が出席していなかったため、副会長の弟の子どもが代理として出席させられ、当町内会で担当する役割分担

の会合のメモを持ってきたと報告を受けました。それには明日まで町内会の担当者を報告するということに記載されてありました。高砂市民センターの避難所運営に専念しようと考えていた矢先でしたので、現実には即していません。高砂小学校避難所運営委員会の考え方に憤りを感じましたが、小学校には8人ほどの小学生が避難しており、学校の保護下にあるという状況でもありました。私の頭の中では高砂小学校には当町内会からは誰も避難していませんので、対応する必要はないと考えていました。実際町内の人たちが避難している、東北厚生年金病院と高砂市民センターを支援すべきで、それをやらずしてほとんど避難していません。小学校の避難所を、組織だからといって支援を要求するのは筋違いだと考えていたからです。副会長に町内会役員会を開催し、対応に当たりたいと相談し、明日10時に集会所に集合するよう役員と民生委員への連絡をお願いしました。夕方遅く地域の電気も回復しない暗い中を、私も役員へ会合の連絡に歩きました。

眠りながら考えていました。不本意ながらも指定避難所の高砂小学校との絆も切らないようにしなければならぬ。情報や支援物資や食料などの配給は指定避難所を通してなされるだろう。高砂市民センターは指定避難所になっていないので、指定避難所との絆を保っておかなければ地域の人たちにそれらが支給されない恐れがあると考えていました。これは地域にとっても大事な重要な問題です。

高砂市民センターでは今日から職員と私が荷物の搬入の窓口対応や、避難者名簿のパソコン入力に当たりました。夜センターから帰宅する際に、館長へ高砂小学校の避難所運営委員会の組織の一員になっているので、明日はそちらへ行かなければならないと話し、そしてこちらへ再び戻れるかどうか分からないことを伝え帰宅しました。

日中は市民センターを拠点として、町内会の人たちの避難状況を確認して回りました。病院に避難していた人たちはOT室に移されていきました。旧知の夫妻もここで過ごしていましたが当町内の人たちはあまりいませんでした。病院の1階は救急治療に当たる場所となっていました。

市民センターに避難していた叔父たち家族は、ホールにいました。娘の従妹から両親をわが家に預かってもらえないかと言われましたが、電気もなく、寒く、余震が続いていたのでまだ此処の方が良いとこたえました。

岩沼の叔父の長男が若林区六丁目の自宅から徒歩で安否確認に来てくれました。

朝、妻がガスの圧力釜で焚いたおにぎりを市民センターにいる叔父たち家族に持って行ったら大変喜ばれました。従妹に炊き出しの手伝いをお願いしたら、和田町内の女性が二人同乗して来て、町内の分もお願いされました。妻は自宅で五升の米を昔の釜を使い、物置のもち米蒸かし用バーナーで焚きました。経験がないため、めっこ飯となりました。塩お

にぎりを100個共同作業で握り提供しました。しかしたくさんさんの避難民がいる中で、おにぎりを一部の人たちだけが持ち込んだり、食べたりするのは問題があり、目立たないよう小分けにし、渡すにも館外へ呼び出すなどの配慮が必要だと考えました。

次女家族が塩釜からわが家に避難してきました。電気の無い生活が続いていました。妻と次女家族は仏間に布団を敷いて休んでいました。一日中各避難所と町内の対応に追われていた私は、ひとり居間で寝ました。

3月14日(月)曇り 最高19.6℃ 最低2.3℃

〔死者一万人必至 宮城県警本部安否不明なお多数 M9.0に修正3号機も爆発の恐れ 地殻破壊3連鎖 死者1,523以上 安否不明11,155以上(朝日新聞見出し)〕

朝6時、自転車で高砂小学校の避難所へ向かいました。運営委員長の牛坂さんがいたので、会合に出席できなかつた事を詫び、メモをいただいたことを話しました。牛坂委員長は「高砂市民センターの状況は聞いていました。そちらの方に専念していただきたい」と言ってくれました。再び高砂市民センターへ戻り、運営支援に入りました。

一緒に避難所運営に当たっている近隣の町内会長にお会いし、高砂小学校の避難所対応についての対応をはかるため、10時から町内会役員会を開催する事。指定避難所との絆を

つないでいくために担当者を小学校へ送る予定であると町内会の考え方を説明しました。

10時に集会所で町内会役員会を開催。今朝の牛坂委員長の話伝え、メモに基づいて町内会の担当者を選出し、副会長が会長代理を務めることになりました。

集会所の前で従弟と出会い、母方の叔父の為に車いすの借用を求めて、わが家に行く途中だと語りました。会議が始まる前だったので、自宅に妻がいる事を伝えました。

東北厚生年金病院が避難者の退去を進めているとの情報が伝わってきました。薬剤の枯渇と救急患者の対応に当たるためという理由からでした。もっともな話です。退去させられた避難者がどこに避難していくのか、移動する前にその情報を確認しておく必要があると思います、病院へ向かいました。OT室には避難者は少なく、私たちの友人たちもまだそこに居ました。避難者を探して手前の部屋を覗くと、先ほど車椅子を求めてきた親類の家族が私を見つけ、話しかけられました。昨日妻と出会い、いろいろなお話をした事、これから先行くところが無いことなどを語りました。私は自宅に戻り、病院での話を妻に伝えると、それでは空いている亡くなった母の部屋に来ていただいたらと言ってくれました。今なら病院にいる事を話すと、妻は従弟が車椅子を取りに来るのでその時にお話ししたいと返答しました。

高砂市民センターで福室第一町内の佐藤会長に会い、役員

会での話をする、今日高砂小学校の避難所へ行って、その際に聞いた話を報告すると言いました。高砂駅前伊藤会長も一緒に行くとの話でしたが、佐藤会長だけ行ったようでした。午後佐藤会長から会合の話がうかがいました。こちらの状況を説明した上で牛坂委員長、池田副委員長、校長より北福室第一、高砂駅前、高砂向田の3町内が高砂市民センターの避難所運営に専念することを了解していただいたと語りました。これで安心して高砂市民センターでの運営に携わることができるようになりました。この旨を副会長に伝え、役員会で決めたことを白紙に戻してくれるようお願いしました。館長の指示により、高砂駅前、福室第一の両会長は私の組織下で行動するようになり、下打ち合わせを行いました。

- ・炊事、運搬を各町内会でおこなうこと。支援要員約5名で行い、輪番制とする。トイレ掃除とゴミ搬出は避難者輪番制をつくり、必要な道具を調達する。
- ・プロパンガスの燃料が間もなく枯渇するので、炊事するのに支障をきたす状況下であり、入手情報を集めてほしい。
- ・混乱の中での周辺の情報と支援物資の情報と避難者の情報収集に努める。
- ・地域の特性として農家がまだ残っているので、米などの食糧提供が期待できる。
- ・避難者のグループ化を行う必要あり。
- ・炊き出しの輪番制は①高砂駅前↓ ②北福室第一↓

③高砂向田とする。食事は朝夕の2回。

食事時間：朝10時（集合時間8時30分）夕17時（集合時間15時30分）炊事場所は防災センター。

プロパンガスが尽きようとしており、自宅の物置にある年末餅つき用ボンベと事務所のボンベを外して提供しました。

仙台市博物館からの応援があり、知り合いの女性学芸員やもう一人の方から声をかけられました。その学芸員は宿泊要員として避難者名簿のパソコン入力に専従していただき、これで避難者の検索など窓口対応がとても効率的になるでしょう。

高砂市民センターの避難所は、未だ混乱している最中でありましたが、館長は行政の支援を受けないと盛んに力説し、支援物資はたとえ多くなっても指定避難所へは送らないと語り、親しい仲間のあいだでの支援を行っていました。

食糧調達と食事の献立は仙台市職員の遠藤さんが責任者となり、運営には欠かせない人としてがんばっていました。遠藤さんは西原の自宅が壊滅し、家族で避難している被災者で、事務所で寝泊まりしながら指導的な立場で避難所の運営に携わっていました。

企業からの支援物資は、賞味期限が明日、明後日とものが多くありました。一帯が停電してしまい、冷蔵や冷凍倉庫に保管していた食料が大量に放出され、持ち込まれました。乳製品、豪華な菓子類、お茶のペットボトルや飲料水、ハム、

ソーセージその他たくさんのお資が届けられました。しかし長期保存の利く主食となるものは少なかったです。豪華な食べ物食べきれないほど次から次へと提供されるので、家庭や周辺の避難所の物資の不足を痛感している事情を知らない人たちからは、批判的な声も上がりました。提供された食料の賞味期限を見ながら、順序よく提供する在庫食料の把握と飽きさせないそれらの献立の組み合わせが求められました。

病院に避難していた友人夫妻も貸家の自宅の壁が壊れ、電気がまだ来ていないので、我が家に宿泊することになりました。こうして和田の叔父たち家族や私たちも含めて4世帯が住むことになりました。

妻が私の事務所の付近で多賀城に暮らしていた叔母に偶然出会ったそうです。住んでいたその場所は、津波で大きな被害を被り、連絡が取れず、安否が気遣われましたが、たまま鶴ヶ谷へ講演会に行っていたお蔭で、難を逃れたと語ったと聞きました。多賀城の貸家に居れば命を失ったかもしれません。今まで兄の家にいたが、これからは白鳥の自宅で子供や孫と一緒に暮らすつもりだと語っていたそうです。多賀城の貸家には、和服の生地を生かした手作り品の制作のための材料として集めていたたくさんのお資がありましたが、それらはすべて失われたようです。



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター



2011.3.14 高砂市民センター

3月15日(火)雨 最高7.2℃ 最低5.0℃

「3号機も水素爆発 福島第一建屋崩壊 2号機も冷却不全 計画停電東電が開始 日銀が追加緩和 朝の首都圏大混乱 停電混乱政権お詫び 米艦船原発事故で退避 世界フィギュア中止 被災地衛生どう守る 被災地にガソリン不足 南三陸1千遺体発見報告 死亡3,093人以上 安否不明11,413人以上 避難約57万人」(朝日新聞見出し)

高砂市民センターへ5時50分到着。窓口で避難者の安否確認が多く、対応に追われる。

第一回避難所会議を開催。場所は伊藤会長の提案により防災センターで行うことになった。

議事録・情報・その他のメモ

町内会関係

- ・食事運搬は地域とボランティアでおこなう。
- ・打ち合わせ時に翌日の食事予定(わかれば)地域での人員が確保しやすい。
- ・トイレの清掃とごみ運搬当番は避難者の中から順番制でお願いしたい。清掃用具が必要。
- ・プロパンガス提供の情報収集をする。午後、ダンロップより転倒した大型ボンベ4本提供あり。同行して運ぶ。
- ・避難者のグループ化その他については電気が回復後長期避難者生活対策とする。
- ・周辺の情報収集が大切である。

・連絡網について

館長 ↓ 避難者

高橋 ↓ 各町内会長 ↓ 各町内会組織

・避難者名簿作成(地域ごと)

・避難者名簿からの地域別整理を避難者の手伝いで手分けして行うよう提案があったが、パソコン入力の方が進んでいるので、どちらが早いか検討すると回答したが、実際は原本が一つだけでコピー機が使用できないため、又安否確認者の対応に追われ、実質的には出来ないことが分かった。15時よりパソコンによる避難者検索開始

(仙台市博物館学芸員のおかげによる)

・支給された食糧を抱えている避難者は、賞味期限の関係上食中毒等の心配がある。説明が端の方まで伝わっていない等の問題が寄せられ、スタッフの手分けにより再度説明に当たる。今日の夕食はむきエビ、ゆで大豆(90袋あり)を調理し、スープをつくる。調理開始は16時。

・毎日10時30分、災害防災センターで打ち合わせ会議を行う。

・周辺のライフラインについて東部市民センターの黒羽館長より仙台バイパス以西は電気が回復しているとの説明があった。佐藤会長から電気の回復について、東北電力の管轄が異なっており、仙台バイパス以西は仙台営業所、以東は塩釜営業所の関係があるのだからとつけ加えられた。

・携帯電話の充電サービス提供についての説明。

・グループのなかでの話し合いは現状では困難という意見があった。

会議後館長が自らグループ分けを行うと言っていました。多忙のため私がやることを承諾していただき、1F6グループ、児童館、ロビー、2F和室1・2、会議室、調理室計11グループを編成しました。それぞれの班でリーダーを選出していただきました。

市職員の遠藤さんが宮城野区役所へ行き、仕事のつてを頼り、たくさんの食料の調達をおこなっていました。彼は分捕合戦と言っていました。待っていては何も届かないので、直接行って分けて貰っていると語りました。今朝は私の軽トラックに避難物資輸送車と紙に書いて貼り、他の応援で来ていた天文台職員と一緒に朝6時に避難所を出発しました。牛乳やプリンなど賞味期限が明日までとなっている商品を、トラックの荷台に山積みし積み込み、再び高砂市民センターへの帰路につきました。途中、ラジオから3時〜5時の津波が押し寄せているので避難するよう何度も放送があり、産業道路に近づくにつれ車で渋滞し始めました。産業道路の七北田川付近は段差が大きくなっていました。高砂給食センター北東の交差点では消防自動車や海岸方面からの避難する車両で大変な渋滞になりました。もちろん信号機はまだ回復しておりません。やっとの思いで高砂市民センターに到

着することができました。

町内会会計の小幡さんからメールがあり、町内会の会計監査ができない旨と緊急時の為に現金10万円を小幡宅に準備してあること、職業の自衛隊出動命令の為に留守になる事が記載されていました。

通販事業者より妻が震災前に落札した帯が出来あがっており、被災地に送れなくなっているというメールの着信もありました。

岩沼に住む学校の同級生や仕事でお世話になった方、趣味グループの指導講師、趣味の会の仲間など今日も心配した多くの人たちからの安否確認の電話がありました。

3月16日(水)曇り 最高5.3℃ 最低0.4℃

〔福島第一制御困難 2号機圧力容器損傷か 4号機核燃料漏出の危機 原発損壊の危機 東証暴落1015円安 統一選被災地中心に延期へ 仙台空港復旧支援へ 死亡4, 304人以上 安否不明16, 630人以上 避難500, 555人〕(朝日新聞見出し)

避難所会議

- ・今後の食糧などの支給について (事務局より)
- ・電気などの回復見込みについて (佐藤会長より)
- ・家庭内の食糧が尽きはじめており、食事だけ求めて来る人たちが増えてきた。
- ・新たな避難者の受け入れは行わない。ただし蒲生、港、

西原、和田、中野新町、白鳥地区の避難者は優先的に受け入れる。(館長より)

・各部屋のリーダーに人数確定をお願いしたい。

・ルール違反は避難所を退去させる。避難所に宿泊しない食事だけの人たちは受け入れない。(館長より)

・明日より会議は10時25分集合。ステーキ宮炊き出し3月17日〜21日。屋外で炊き出し2000食(牛丼、豚汁、カレーライス) 一般対象

・避難所の食事はいづれ2食にしたい。

・携帯電話の充電の話は会議の後でしてほしい。

・自宅に電気と水の供給が出来た方は重度避難者の方に場所を譲ってほしい。↓これは館長が伝える。

・携帯電話(IP)は高砂駅前町内で使用できるようになった。

・食事の配布リストを作ったらよいのではないか。

・リーダーはグループの困っている事をすいあげる。

・高砂駅前周辺は昨夜点灯。

・夕食の炊き出し高砂駅前町内会当番 集合15時30分。やらなければならない事

・ゴミ出しの搬出方式と排出及びトイレの清掃当番計画。

館長は災害発生以降、避難所で仮眠する生活が続いており避難者からも身体を気遣う声が上がっていました。自宅に戻って休むよう事務所の皆さんで説得しましたが、なかなかう

け入れてはいただけませんでした。そこで黒羽館長から当館長へ理事長命令で帰宅して休息をとっていただく案をみんなで相談しました。話をうかがえば上飯田のご自宅は、震災で一部損壊し、住めない状態にあり、奥様も避難所生活をおくられているとの事でした。自宅に帰っても食事もないし、行き帰りをするにもガソリンが無いと言って、帰れない理由を話してくれました。「それでは私の家へ来てください」と、この場を離れる方法を提案しました。我が家はもちろん未だ電気もつかず、4世帯の生活が続いていました。

遠藤さんも自宅を失い、館長と同様避難所で仮眠をとりながら生活を続けていました。そしてこれまで避難所運営の食糧の調達と食事計画の重要部門を担ってきました。顔色がすぐれず、疲労が蓄積していることは、誰の目にも明らかで、休息が必要であることははっきり分かっていました。お二人から、我が家で宿泊をしていただくことに同意していただくことができ、2階の娘の部屋で休んでいただきました。

今日も東京の所属団体や元会社の同僚から安否確認の電話がありました。

3月17日(木)にわか雪 最高1.7℃最低マイナス2.7℃

「3号機から白煙 福島第一周辺で高濃度放射能 支援物資なぜか届かない 死者・不明者「阪神」を超える計9千人戦後最悪 車通れず孤立長期化 仙台、店に徹夜の列 ガソリンなぜ不足 日本産

品の検査強化 仙台市ガス復旧1ヶ月「困難」 死亡5, 052人以上 安否不明16, 160人以上 避難408, 600人(朝日新聞見出し)

朝5時50分避難所へ出勤。遠藤さんも出勤し、いつもと同様宮城野区へ食糧を取りに行きましたが、食糧の備蓄はあまりなく、いただくことはできなかつたと帰ってきました。そして今後は平等に自衛隊による食糧の支給となるので、これまでのように多くの支給はできなくなると話しました。このようなこともあり、避難所の食事はこれ以後2回になりました。

遠藤さんの様子はだんだんひどくなり、便が普通の状態ではなく、食糧庫でカイロをおなかに当てて温め、横になって休んでいました。その後救急車で病院に運ばれ、入院しました。

ローソン高砂1丁目店、店長より灯油2缶、段ボールで菓子数個提供の連絡がありました。店では24時間トイレサーブ・水の支給を行っています。盗みや町内会ボランティアを名乗るカタリが非常に多いので、顔見知りである高砂駅前、前防災部長をこちらに差し向けて欲しいという申し入れがありました。

避難所会議11時

- ・避難者の意見・要望をうかがう。↓ 館長が随時対応
- ・グループリーダーが人数を確認しているのに、食料を1人

1人個別に渡しているのは意味がない。

↓ 担当者を決定し、そのグループの人数分の食事をグループ毎に置いておく。1人1人渡すのはそのあとでいい。ホール・ロビーにいるセンタ避難者ではなかつた人に配ったり、同じ人に2度手渡したり、ただロビーにいる人に渡しているようだ。

- ・水支給ボランティアは必要か ↓ もう少し継続してもよろしいのではないか。

ボランティアさん同士の意識が同じではないのでやりにくい。↓ センター担当がなんでもボランティアさんに頼む前に、指示を明確に効率よく伝えてほしい。

・電気についての周辺の状況について、高砂駅前周辺の電気が回復。現在東北厚生年金病院を集中的に復旧作業中。周辺についてはトランスの状況を目視で確認中。今週中には通電するのではないか。

・国道45号線北側の福室の電気が回復したので、自家用米60kgを北福室郵便局裏の精米機で精米し、避難所へ支援物資として提供。

・福室の三浦源治様より精米60kg支援物資として提供いただく。

- ・18日朝食準備 高砂駅前町内会当番、夕食 北福室第一町内会当番

・かぜ薬調達を要する。今日は高砂小学校に医師が来ている。

- ・衣類の受け入れについては充分間に合っているのでお断りする。
- ・高齢者の体調が崩れているので、医師の巡回など医療関係とのネットワークの連絡網をしっかりとってほしい。
- ・ヤマザワが開店しているのでアレルギー対応のミルク（明治から発売されているミルクアレルギー除去食品の粉ミルク）が購入ができる。
- ・夜の携帯電話充電も始めたい。 ↓ グループ分けによる充電をおこなう。時間設定と人数が多ければ抽選で対応する。
- ・ドッグフードは必要の要請があれば提供してください。
- ・館長の報道取材予定について
- ・被災地の自衛隊による解体と撤去作業について、館長が許可。
- ・20歳以下のボランティアはやらないようにする。
- ・近々公衆電話の設置がおこなわれる予定。
- ・避難者の方からの提案。衣類支給を行う方法として、各グループの避難者情報の調査を進め、住まいを失った方を最優先に配布するため、調査票を配布し、それに基づいて行ったほうが良いのではないかとの意見がありました。調査項目として氏名、住所、家屋の状況（ライフラインが回復した時に生活ができるか否か）、家からの荷物の持ち出しが可能かどうか、車の有無、身寄りが県内か県外かなどの

例が示された。

18日朝食のメニュー…ウインナーソーセージ2本、わかめスープ（カップ）、バームクーヘン、ミカン1個 炊き出し担当高砂駅前町内会

3月18日（金）快晴 最高5.7℃ 最低マイナス4.1℃

〔陸自30t放水へ 消防車5台へリも散水 福島第一原発米軍は無人偵察機 避難所死者相次ぐ 投機マネー円買い 米、80⁺圏外へ避難勧告 避難指示30⁺圏に拡大 足りぬ医薬品病院悲痛死亡5, 522人以上 安否不明16, 991人以上

避難420, 486人（朝日新聞見出し）

避難所会議（現在避難者356名）

・会議後グループ分けをするので、グループごとの調査協力依頼。

- ・ゴミとトイレ清掃を担当制にしたい。
- ・今朝寒かったので毛布の追加希望があれば提供したい。
- ・支援物資の中で数量が少なくてすぐ使用してもらいたいのものは、リーダーを通して渡します。（ウエットティッシュ）
- ・1F当番①菅野 ②鈴木 ③高橋、木村 ④伊藤、星
- ⑤ロビー（浦）・遊戯室（千年）
- 2当番 A和室1・2 B会議室 C調理室
- ・子どもが夜うるさいとの苦情があり、会議で検討し遊びは6時までとした。

- ・宮城野区長が避難所においでになった。
- ・インフルエンザが発生した場合は保健センターで受け入れる。
- ・避難所で盗難が発生しているので、貴重品などの盗難防止に努めてほしい。
- ・携帯電話充電について。
- ・小中学校は授業再開のため、避難者の移動を促している。
- ・電気は今日中に回復するのではないか。
- ・炊き出し宮ステーキ（牛丼、カレーライス、豚汁）夕食時 15時～17時
- ・トイレ掃除、ゴミの搬出当番の担当範囲と順番表を作成し、3か所に掲示。朝6時半ラジオ体操、7時45分より場内一斉清掃と当番はトイレ清掃をおこなう（トイレレットペーパー交換まで）10時55分に災害防災センターでリーダー会議実施、など毎日のサイクルを決め掲示。
- ・19日13時より家屋を失った人たちを対象に衣類の配布。
- ・22日15時よりラーメン屋(株)ワンスピリットが稲庭うどん1000食炊き出し予定。手伝い3人必要。一般も対象
- ・23日から静岡市より職員5名、宮城野区役所から1名応援に来る予定。

協力委業者2社から安否確認の電話がありました。

3月19日（土）にわか雨

最高14.2℃ 最低マイナス0.8℃

「死者「阪神」を越す 警察庁集計6,548人戦後最悪の災害 懸命の放水続く放水能力総動員へ 円高阻止へ日欧介入 危機時連立も視野 石巻老人ホーム66人救出 火葬・自治体保存に限界 電気、沿岸除き復旧へ ナイター開催に待った 安保理決議リビアに引こう禁止区域 死亡6,548人、安否不明18,016人以上 避難403,811人以上（朝日新聞見出し）

避難所リーダー会議

- ・13時衣類の配布：①男物 ②女物 ③子供用と分けてあります。1人1品で家屋を失った方を対象に行います。混乱を避けるため男物が終わったら次に女物の配布に移り、最後に子供用の配布になります。場所はホール前のコーナー。サイズが合わないなどの調整は配布後に行いますので、申し出てください。
- ・夜間寝たばこをしている人を見つけたので、退去を命じます。（館長） ↓ 館内に禁煙表示
- ・22日よりラーメンの炊き出しを行います。1000食15時から。
- ・1F廊下での就寝はやめてください。（遊戯室前で中学生らしい人が寝ている）
- ・支給品が渡っていない人がいるので、確認してください。
- ・個人としての差し入れはやむをえないが、地区としては禁

止です。

・今日ぐらいで地域に電気がつく予定となっていていますので、港、蒲生、西原、和田以外の方は自宅への移動を考えてください。(館長)

・新しく仮設トイレが3台増えます。

・朝の一斉清掃時、当番グループはトイレ清掃に当たって下さい。清掃用具準備(ブラシ、手袋など)

・県内の住宅地図を備えました。

・牛井炊き出し…今日は16時開店。

・癒しのために館内に音楽を流す。CDベストライブより提供。

・静岡市の職員が応援(3月24日～4月30日10人常駐予定) 24日朝、静岡市職員10人分朝食を準備。

・公衆電話5台設置予定。

・高齢者2名避難所受け入れあり。

東京の「高齢者の住まいを考える会」理事長より夜安否確認の電話がありました。

3月20日(日)曇りのち雨 最高12.5℃ 最低4.0℃

「福島原発通電へ 仮設住宅建設始まる 農産物基準を越す放射能谷垣総裁入閣せず みずほ銀3連休も窓口 仙台最大の「南蒲生」下水処理場が壊滅的 「日本一」の防波堤無残宮古・田老地区 J

R 仙石線同時出発の上下列車その時乗客110人 脱出県外へ 死亡7, 320人 安否不明19, 447人以上 避難345, 946人(朝日新聞見出し)

避難所リーダー会議

・コーナーに衣類がありますので、ご自由にお取りください。
・仙台市避難カードは21日のリーダー会議まで回収する。
・昨夜「ルポ」福室の理事長の好意で10本ほど試みに。ペットボトルの湯たんぽを提供しましたが、希望者があれば提供します。

・避難者に苛立ちがあり、気に障るような話題や大きな笑い声などに配慮してほしい。

・仙台東部道路災害緊急復旧工事からのお願事項。

・受付の向かいの階段のピンク電話のところに5台の公衆電話(携帯電話)を設置しましたので、使用ルールを守ってご利用ください。1人5分以内。充電器をつけたままお使いください。中学生以下の使用は禁止します。使用時間は7時～19時。

・おむつ・ミルク・衣類など必要としている避難所に物資を回す。

・不要食材(食べられないもの)を処分。

・牛井の肉だけ食べて捨てている子どもを見受けられるが、親は食べ物を無駄にしないよう指導してほしい。

・昨夜電気が回復したので電気機器の活用をすべきである。

掃除機、コピー機、電子レンジ、エレベーター、放送設備、テレビなど。

・各グループの人員調査を行う→長期避難生活のためのグループ再編資料として活用。

・明日動物病院でペットコーナーを開設（モルモット、うさぎ、綿菓子、ポップコーン）

・2階トイレの清掃は業者が行うので、2階のグループは旧屋外トイレ5台をおこなう。

・札幌市より医療チーム5人応援に来ていたので紹介。

・明日の炊き出し…カレースープラーメン開店17…30…18…30…容器が無いのでその前の牛丼容器を捨てないで持っているように。

・21日のグループ再編移動は避難者がたくさんいる夜の方が良いという意見があったので、19時より一斉に身の周りのものを持って移動することにした。

長期避難生活のために班の再編計画

・ロビーでの就寝は廃止とし、出来るだけ2階の部屋と遊戯室へ地区ごとに入ってもらい、少しでも生活を楽にしたい。
・住所で地区を判断し避難場所を計画したが、住所は別でも同じ町内だったりする問題があり、事前に2階に移動する蒲生、高松、牛小屋、和田の人たちが話し合い調整してもらうことで了解を取った。そのほうが私たちが知らない地

域力を生かせ、まとめやすいと考えたからである。

・今使用しているホールは電気が回復したので、高砂、福室、その他の人たちは間もなく退去することが予想され、今後の入所者の場所として用意しておきたいことや、大きな空間は生活しにくい場所でもあることから、このような計画を立てた。

現在

1F…遊戯室 八幡+荒浜+出花+大代+田中+中野+白鳥 計23名

ホール 高砂5名、福室35名、その他6名

2F…会議室 蒲生屋敷+牛小屋 計70名

和室1・2 蒲生 計36名

調理室 蒲生+西原+高松 計33名

今日寝たばこをしたルール違反者が戻ってきたので、退去命令を出して、黒羽館長とボランティア2人同乗の車で指定避難所へ送り届けた。（近くの中学校へ行ったが断られ、小学校で受け入れてもらったとのこと）

黒羽館長と相談し、24日より静岡市から来られる常時10人の応援隊の人たちに、支援物資の仕分けをおこなっていただき、物品、数量、所在、賞味期限などを把握したほうが支援物資を無駄なく活用できるのではないかと考えました。
炊き出し当番（20日）…朝食 北福室第一 夕食 高砂向田

（21日）…朝食 高砂駅前 夕食 北福室第一

今夜からわが家は、私たちの他に叔父たちの家族1世帯の

みとなりました。

3月21日(月)曇り 最高18.4℃ 最低4.7℃

「2号機が通電 福島第一3〜6号機接続急ぐ」 リビアに軍事介入
英米仏軍施設にミサイル 政権、被災地支援を再構築 水産業消え
た日本一の宮城壊滅状態 福島作れるのか売れるのか 宮城気仙沼
はやる心残骸の海越える 船流され捕鯨の町沈痛石巻市鮎川 石巻
倒壊家屋から80歳と16歳孫救出 死亡8,649人 安否不明
18,400人以上(朝日新聞見出し)

避難所リーダー会議

- ・産業道路夜間通行止め。(高柳―石橋)
- ・牛井は今日で終了し、明日はラーメンの炊き出し。
- ・今日の炊き出しのカレースープラーメン(17時30分〜18時)は、その前の牛井容器を捨てないで持っているようにお願いします。

朝の清掃後、ホコリの除去と新鮮空気の入替えをしたいので、窓、ドアを解放します。

避難者の退去命令の仕方について、館長命令で行いますので、リーダーの判断をおおぎません。(これはルール違反した避難者を退去させる件でリーダーが集まり協議したことについて、会議終了後参加したひとりから、リーダーを引き受けた際に、このような件に関しての責任負担を持つことについて承諾していないとの異議が出されたこと

による)

- ・外での飲酒をやって館内に入るのはやめてほしい。
- ・ホール消灯21時。各部屋の消灯はリーダーに任せる。廊下(半分)22時。屋外トイレは節電の為1時消灯。
- ・避難者カードは事務所へ届けてください。
- ・誓渡寺中野幼稚園送迎付き入浴サービスは抽選で今日から始めます。

明日22日19時より部屋替えを一斉に行います。高齢者の方でどうしても1階に居たい人はホールになります。肌着の支給は家屋を失った人を対象に、必要な方に必要なだけを支給するため、年齢、身内関係などのグループプリストを活用。

「ルポ福室」よりホールの希望者用として畳12枚をいただいた。

3月22日(火)晴れ 最高9.1℃ 最低3.1℃

「福島第一5号機に外部電源 本格的冷却が始動 計画停電次の冬も 福島・茨城・栃木・群馬産ホウレンソウとかき菜・福島産牛乳 政府出荷停止を指示 ATM引き出し可能に 首相視察政権内に賛否 年金頼み強まる 死亡8,649人 安否不明18,400人」
(朝日新聞見出し)

妻は21日から右腕が痛み出し、その夜は湿布薬を貼ってやっと寝ることができましたが、今夜は痛みが激しく、半身

を起してうつ伏せで眠りました。次女は病院に出勤。保育所が破壊されてしまいましたので、我が家で孫娘を預からなければなりません。叔父夫婦の相手をしていただくために、娘の従妹を来ていただき、私は孫の子守をしました。妻は近くの整形外科医院へ徒歩で行くことにしました。

朝5時半頃避難所へ行って、午前中休ませていただくことを告げ、田子市民センターの館長に、避難所リーダー会の件を中心に引き継ぎました。

午後避難所へ復帰。14時頃避難所に岩切の知人の高橋さんより全壊した自宅の罹災証明書の件で電話がありました。

宮城野区街並み形成課で必要事項を確認すると固定資産税課が担当窓口で、建築士の役割は不要なことが分かりました。岩切の高橋さん宅を訪れ、住まいの被災状況の写真を撮影し私の事務所に戻りその写真をプリントしてすぐに高橋さん宅へ届けました。南隣の知人三浦さん宅へも伺い、奥様に、南側の旧岩切郵便局の被災状況を見に案内していただきました。この建物は、松島の瑞巖寺の参道にあつたといわれる扇屋という旅籠を、明治初期に解体移築したと言ひ伝えられている木造建築の文化財で、時間経過と共にかなりの老朽化が進んでおり、土台部分など基礎周りの腐朽や蟻害、建物の不同沈下がありました。耐震的にはとても耐えられないという建築物でしたが、これまでキリスト教の集会所として使われていました。高橋さん宅の耐震診断での縁があり、震災前

にキリスト関係者の高橋さんや所有者の三浦さんのご好意により、私がこの建物の調査と詳細な図面化を行うことが出来ました。その関係で私に連絡が入ったのです。内部の家具転倒などがあるものの建物自体の破損は思いの他ありませんでした。

避難所リーダー会議

・避難所に放置自転車の活用として宮城野区役所から20台提供されました。黒羽館長より貸し出し管理の説明あり。
・23日夕食時に和田丹野畜産から焼肉の炊き出し予定。
・給水ボランティアの終了に当たり、担当者から廃止方法についてクレームがあつたが、リーダー会議の場で館長からのお礼の挨拶と引き継ぎをおこない、事実上完了。
・電気が回復したので、高齢者の為のエレベーター活用を提案し、点検のお願いする。使用方法、管理に当たっては、子供たちの悪戯使用防止のため、内線電話による事務所への連絡方法で電源を入れることになった。

19時から一斉に部屋替えを行いました。事前に和田町内から移動場所の会議室で、子供たちの声がうるさいので、ホールにしたいという希望が出ていましたが、混乱を招くので計画通り会議室へ移動後、ホールへ再移動してもらうことにしていました。移動する場所は混乱が起きないように、朝から解りやすいように色別で掲示し、混乱をできるだけ避ける

よう準備していました。まずホールから始め、今入っているホールの人たちを片側に移動してもらい、表示のある場所へ予定の人たちに移動していただく。落ち着いたところで2階の人たちが次にホールの予定場所へ移動していただく。そうすれば半分近くの人たちの移動が完了するので混乱は避けられ、2階への移動が混乱なく進む。2階の住み分けは、町内関係者が事前に話を進めているので、うまく調整されるはずだと考えていました。又、事前に場所取り合戦が行われるという情報がありました。町内会の関係者の調整力に信頼を置くしかなかった。事実はこれとは異なっていました。住みやすい和室1・2を真っ先に占領されてしまいました。この混乱時にあって地域の調整力は弱く、指導的な役割を果たす人は少なく、事実上皆無なほど無力でした。そして2階は不平不満の大混乱となってしまう、その矛先は私に向けられました。事務所のスタッフが手を尽くしてなだめたりしましたが、状況を説明し、我慢していただきました。こうして長期避難者のための部屋替えは失敗に終わりました。

地域の状況が分からず、避難者受け入れの混乱時に個人別の移動場所の割り当て計画が出来ない事とそれぞれの事情を抱えて、精神的にも傷を負っている人たちがいる不特定多数の人たちを一斉に短時間で移動しなければならぬということの難しさが失敗の原因としてありました。しかしこのよ

うな事情にもかかわらず、避難者の多くの人々は、私の考えを理解してくれ、私の指示に従って協力してくれました。

避難所事務所にいた私の携帯電話に、東京のJPS（日本写真家協会）公募実行委員会の方から、震災前に応募していた組み写真が入選したとの連絡が入りました。思いがけない吉報がもたらされました。プロも交えた大変権威ある全国展の公募でしたので、これから写真を勉強していくために、自分を励ます意味で応募したもので、成果を期待したものはありませんでした。2作品応募して入選したので入選作を確認しますと、それは『沼の営み』だとわかりました。私は天にも昇るような喜びでしたが、避難所の状況を目の前にして、これを表情に出すのはとても不謹慎なことで、無言で押さえつけているだけでした。展示のための作品制作が必要となり、ラボが被災してプリントができない場合のために、実行委員会事務局から東京の(株)写真弘社を紹介され、展示料として4枚で3万2千円JPSに振り込むように説明されました。自宅に戻ってみると、社団法人日本写真家協会JPS展実行委員会の青い封筒と京都造形芸術大学からの入学許可証や学生証が入った封筒が届いていました。

3月23日(水) 晴れ 朝寒い 最高6.4℃ 最低1.1℃

「4号機にも通電 停止対象外野菜を拒否 海水から放射性物質相当量のセシウム検出茨城ひたちなか 税・金融支援策急ぐ 漁港

壊滅大震災で岩手・宮城・福島県 米軍空母・ヘリ同乗甲板に援助物資ずらり 仙台海岸壁半数利用可能に 宮城土葬始まる お年寄り寒さ限界守ろう避難後の命 死亡9,079人 安否不明18,231人(朝日新聞見出し)

朝賃貸している事業所の建物点検と修復工事の依頼を施工業者に連絡しました。工事待ちの八木山のお客様へ安否確認と工事がしばらくできない旨をお願いしました。

福室郵便局よりJPSへ展示料と作品展写真集10冊分の代金を振り込む。電話で(株)写真弘社へプリントを依頼しフィルム原版4枚を郵送する。

今日の夕方には、和田の丹野精肉店から肉四十kg提供により地元被災者調理の焼肉の炊き出しが行われた。

保健センターからの要請で避難所の女性の病人を私の軽トラックで東北厚生年金病院へ届ける。

新グループ編成により、トイレ清掃とゴミ搬出の当番計画を作成。

浅見館長が一旦自宅に戻るも、21時頃電話が入り、我が家へ宿泊の申し出がありました。

3月24日(木)曇り 最高7.3℃ 最低マイナス1.5℃

「福島産摂取制限を指示 東京23区多摩5市水道水に放射性物質3号機からまた黒煙 セシウム検出不安の村飯館人口の半数避難1〜4号機まだ不安定 東電に2兆円規模融資 震災被害16兆」

25兆円政府試算住宅・構造物が対象 津波被害田畑2万畝岩手宮城福島 燃料補給大幅改善へ 東北新幹線来月再開にメド 被災者の疎開検討 宮古の津波8.5超 死亡9,452人 安否不明18,455人(朝日新聞見出し)

今朝高砂市民センター避難所へ6時。昨夜浅見館長がわが家へ宿泊したので一緒に出勤。

避難所リーダー会議

・新グループ編成につき、トイレ掃除とゴミ搬出担当の当番表について会議上で説明し揭示。

・グループ別避難者名簿に年齢と同世帯の再調査。(家屋を失った方への下着などの配布のため)

・誓渡寺中野幼稚園入浴サービスは23日で終了。ステラパーク26日限定で送迎なしの入浴サービス。午前中女性定員30名、午後定員30名の伝達。

・カップヌードルミニの外部サービス。13時半頃の伝達。

・班編成替えによる各班のリーダー確認。

・ひと・まち財団から3人応援。

・東北厚生年金病院からの医療派遣は23日で完了し、必要の際は電話での要請となる。

・プロパンガスが無くなり、各方面へ調達依頼。↓プロパンガスボンベ、宮城野区役所からの連絡で入手。
・ホールに鶴巻小学校から明日入所する予定の避難者の為の毛布を積んであるが、勝手に持ち出さないように。これは

学校の授業再開に向けて、避難所として使用していた学校施設を開放する動きによるものである。

・罹災証明については、区役所の固定資産税課が窓口である事。被災した建物の状況の写真と個人を証明するもの、本人申請である事を連絡。

・黒羽館長から配色カードについての説明。

・静岡市から10名の応援が来る。主に支援物資の仕分けと荷受け作業に当たり、黒羽館長が担当。

被災地の和田で豆腐製造業を営む叔父の息子の従弟からの話により、心配していた被災した工場、事務所への保険がかなり充実していることが分かりました。又岩沼の大きな豆腐店の操業閉鎖に伴い、製造機械設備をそっくり譲渡を受けるとの予定であることなど、再建に向けての明るいニュースが伝えられました。

岩切の高橋さんから、罹災証明の申請をしてきたことの連絡と自宅の外壁の応急手当てをする職人の依頼がありました。たが、その後手当てができたとの連絡がありました。

3月25日(金)曇り夕方から小雨

最高6.3℃ 最低マイナス1.1℃

「汚染スリーマイル超す 作業員3名被曝 12知事選告示 秋葉原殺傷被告に死刑 原発安定「最低1ヶ月」30⁺圏外も被曝予

想 水道水東京の摂取制限解除 統一選スタート リビア空爆壊滅的打撃 ハローワーク求人0 太平洋沿岸電話復旧メド立たず エリザベス・テラーさん死去 角界追放20人超 セ・パとも4月12日開幕 何としてもガソリンを 東北道一般車両通行可 去るか残るか石巻の旧雄勝町悩む住民 死亡9,737人 安否不明18,762人(朝日新聞見出し)

今朝は久しぶりにゆっくりと7時半に高砂市民センター避難所へ行く。

避難所リーダー会議

・ステラパーク入浴サービスの整理券配布。

・被災者へはがきの無料配布と郵便物の料金免除希望者募集案内と午後配布について。

・新グループの世帯数調査票収集完了。(会議室、遊戯室、和室1・2、ホール和田、ホール高砂、ホール福室、ホールその他の8グループ)

・炊き出し当番について、町内会主体から避難者主体運営までの移行スケジュール及び事務所とグループの仕事の区分について提案があった。これは炊き出し支援をしている3町内の支援者から自分の家庭の大変さを抱えながら、いつまで支援をしなければいけないのかという苦情が出てきたことによる。

・少数化するホール高砂とホール福室を一つにする案の提出。電気が回復したことにより、自宅に帰る避難者が多くなつ

たことによる。

- ・黒羽館長からお菓子のおたのしみ袋の説明あり。
- ・医師会、看護師会からの通達があり、3月11日の震災後に東北年金病院を受診し、医療費、薬代を支払った方は払い戻すので、領収書を持って換金してくださいとの伝達。
- ・通電に伴い子ども遊び時間を相談。21時までとする。
- ・札幌医療チームより仙台市内の医療機関リストが事務所に
あることの伝達。
- ・28日午後歯科医師が当避難所を巡回予定。
- ・多賀城市内の治安が悪い情報あり。
- ・避難所の54歳の男性、仙台市立病院救急センターへ救急車で搬送。

今日の避難所リーダー会議で一番の仕事は、三町内会による炊き出し支援を、避難者の方々の自主運営に委ねる案を説明し、認めてもらうことにありました。会議の中で特に質問もなく承認され、明日26日より各班から2名ずつ炊き出しに参加していただき、29日の朝食をもって町内会炊き出し支援を終了することになりました。今日9時に鶴巻小学校避難所閉鎖に伴い、17人が高砂市民センター避難所へ移動しました。このグループのリーダー代理に当三町内会の概要とリーダーの役割などを説明し、鶴巻グループを入れた当番の再編成表を作成しました。今日の朝の炊き出しは高砂向田町

内会、夕は高砂駅前町内会。ホールの避難者は再編以後急速に退去をしています。

19時から高砂向田町内会の集会所で、平成23年度の町内会総会の件について、役員会議を開催。予定通り4月10日に開催することになりました。

横須賀の親戚から見舞いの電話がありました。明日宇都宮に居る長男が帰宅する予定です。

3月26日(土)にわか雨 最高7.1℃ 最低0.2℃

「原子炉から放射能漏れか 汚染水濃度1万倍 夏の電力2割不足 選挙なんてできない名簿流出・不明者も多数 税制改革先送りか 津波の災害国内最悪死者・不明者「明治三陸超す」 NATO軍事作戦合意 部品工場被災全国に影 電波時計見えぬ復旧 世界フィギュアモスクワで開催 インフル警戒を仙台市の急患3割が感染 死亡10,066人 安否不明19,743人」(朝日新聞見出し)

昨夜の雨は雪に変わったようだ。7時半に高砂市民センター避難所へ。

午前中避難所運営をし、午後は地震以後に過ぎ去った日々を記録しました。カメラを持ち、軽トラックで岡田地区に行きました。道路の南側の水田にはたくさんさんの破壊された家屋のゴミと車と様々なものが泥の中に散乱していました。もちろん道路の両脇は道を片付けた多量のゴミ類が道幅を狭くしていました。タイヤのパンクを心配しながら進むその前に

広がる光景は、やはり筆舌に尽くしがたいものでした。電柱は傾き、電線は見当たらず、自衛隊のたくさんの人たちが片手に棒を持ち、道の両側にいました。行方不明者の搜索に当たっているのでしょうか。海側の遠くにも搜索しているとみられる人たちが歩いていきました。道路を数台ではありますが車が行き来します。若林区との区界まできたとき、自衛官と思われる人が進入禁止とするため、右折するよう指示していました。

再び産業道路に戻り、七北田川の左岸堤防を蒲生へと向かいました。

海岸道路の高砂橋の所で先ほどまで蒲生方面の車両進入を阻んでいた自衛官は見当たらず、和田新田の入り口で軽トラックを置き、蒲生へ向かって歩き始めました。

西原のコミュニティセンターはすっかり水が浸入し、窓ガラスが破壊され、児童館の様々な用具が外に散乱していました。

そこから道路沿いの北方を見ると、道に家屋の破壊物が山積となり、家屋の破壊状況は和田以上に激しいものでした。更に進むと、道路沿いの鉄工場と思われる建物や倉庫、事務所が火災で焼けただけ、無残な姿で連なっていました。蒲生はまさに壊滅でした。堤防からは中野小学校を残し、遠くの吾妻製鋼所などの企業の建物がよく見え、その間の家屋はことごとく壊滅していました。すぐ海が近くに見える。川の中に

は数台の車がわずかにその姿を水上に出ていました。中野小学校の一階は乗用車が窓を突き破って中に入り、全てのものが泥にまみれていました。東側の出入り口とみられる鉄骨部分は破壊され、校舎には流された住宅の屋根が外壁にへばりついていました。プールはたくさんさんのゴミや建物の木材で埋まっていました。この場所に避難した人たちはどんな思いで津波の襲来を眺めていたのでしょうか。幾重にも不気味な音をたてて繰り返す広大な津波の中で孤立し、死の恐怖におびえながら過ごした時間は想像を絶します。帰路についたときは、日が落ちて宵が迫っていました。次第に明かりが乏しくなっていく中で、和田新田の叔父の自宅とはるか遠くに豆腐工場を確認しました。

長男と長女が遠方から帰宅する時間からだいぶ時間が経過していました。この災害現場を見ながら、心身とも疲れ果てて、自宅を出る前に議論した屋根の葺き替えの事はどうでもよくなっていました。子供たちや孫たちがわが家に集まっていました。

今夜から被災した叔父たち夫妻は、妻の計らいで小幡さんのアパートに移りました。

3月27日(日) 晴れ 最高6.9℃ 最低マイナス1.3℃
「手段疎開心が痛む 福島全域「作付け延期を」 海水に基準を越すよう素 津波・放射能泣く農地 滞る部品世界に打撃 自衛隊10

万人奮闘 米、原発増設を凍結も イチゴ産地も直撃（山元町） 気仙沼の大島被災の離島船がない 南三陸集団避難「去っても残っても地獄」 陸前高田市戸籍を埋葬を 全国の漁師気仙沼へ物資死亡10,418人 安否不明19,768人（朝日新聞見出し）

7時半に高砂市民センター避難所へ行く。今日の炊き出しは朝高砂向田町内会、夕は北福室第一町内会。高砂市民センター避難所の組織的運営は順調に推移しているのもう心配することはない。

午前中高砂市民センターで避難所運営に参加しながら周辺の避難所を回りました。サニーハイツ高砂を訪れ、情報交換。サニーハイツ高砂の3階以上は震災によって住めない状態にあり、解体するしかないことやそれに伴う住民の意見の取りまとめに苦労されていると聞いていました。

高砂小学校避難所の体育館に行き、運営委員長の牛坂さんにお会いしました。ステージの上が支援物資置き場と避難所運営管理場所となっており、限界だと語りました。

その後を訪れた高砂中学校の避難所、岡田小学校の避難所も含め、どの避難所も苦戦しているように見えました。長期にわたる奮闘の中で、運営する人たちや避難生活をしている人たちが非常に疲れ切っているようでした。

妻は長男の運転する車で泉区の実家へお見舞いに出かけました。現在の場所を売却し、泉区の成田へ移り住む方向で検討している様です。

岩切の高橋さんから電話があり、旧岩切郵便局は解体する予定である事を伝えられ、自宅をどのようにしたら住めるようになるかアドバイスを求められました。

早朝、町内会総会の議長をOさんをお願いし、快諾いただきました。

震災直後岡田の職場へ向かって帰ってこないと言っていた町内の親しい知人の夫は、その後利府の県営体育館の遺体安置所で確認されました。今日火葬が終わり、自宅に戻ってくる頃だと妻が話したので、電話でそのことを確認し、午後三時頃妻と二人で焼香するため自宅に伺いました。奥様と子供たちがいて、町内会での回覧などは遠慮したいとの申し出があり、それに従いました。



2011.3.26 中野小学校



2011.3.26 中野小学校



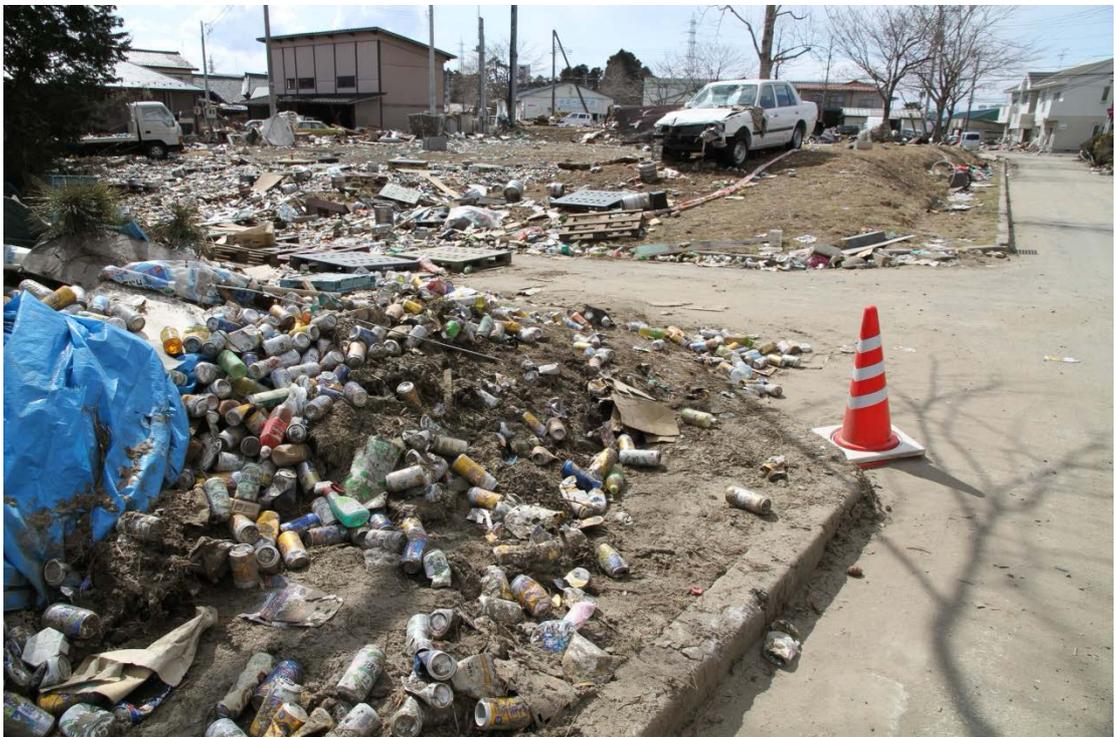
2011.3.26 蒲生



2011.3.26 和田新田



2011.3.26 和田新田



2011.3.27 和田新田



2011.3.26 西原 中野コミュニティセンター



2011.3.26 西原



2011.3.26 西原



2011.3.26 岡田



2011.3.26 岡田



2011.3.26 岡田



2011.3.26 岡田



2011.3.27 岡田



2011.3.27 岡田



2011.3.27 岡田



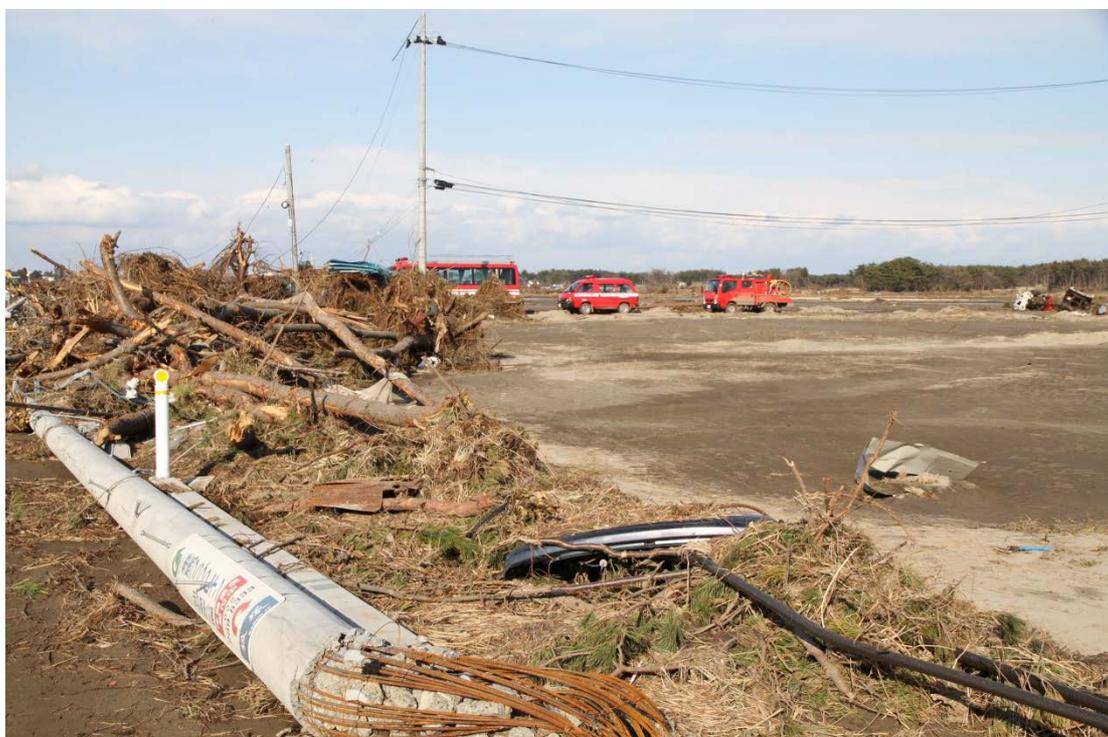
2011.3.27 岡田



2011.3.26 南蒲生



2011.3.26 新浜



2011.3.26 新浜



2011.3.26 狐塚付近



2011.4.4 福田大橋付近

3月28日(月) 晴れ 最高10.7℃ 最低マイナス1.7℃

「2号機タービン建屋汚染濃度通常の1000万倍 地方支援へ復興交付金 逆風世界の原発 リビア政府軍が無差別攻撃 せめて思い出を 津波の残した危険物が散乱ガスタンク横倒し劇物ボンベ125本流出 女川鉄筋ビル基礎から倒壊 支援の動き全国から死亡10,668人 安否不明19,395人」(朝日新聞見出し)

8時に高砂市民センターの避難所へ行く。

・炊き出し…朝 高砂向田町内会 夕 高砂駅前町内会
・自衛隊の入浴サービスや秋保温泉ホテル(佐勘、ニュー水戸屋、岩沼屋)の送迎バス付き入浴サービスなどの情報が入る。

妻が渡辺整形外科医院に治療に行きました。腕の上げ下ろしテストをし、問題ないと薬をもらって帰宅しました。

長男は次女の希望により乗用車に積んで自転車を1台積んできたことを知りました。後ろに孫娘を乗せる台も一緒に持参したとのこと。

妻も私に刺激されてか震災前に通信教育ですが東北福祉大へ入学願書を申請し、3年生への編入許可が届いていました。長男が帰る時に妻と私に専門書でも買ったらいいと入学祝をさし出しました。何という幸せなのでしょう。こうして長女と長男は職場へ戻って行きました。

15時に妻と二人で泉区鶴ヶ丘のMさん宅へ震災の被害

の状況を確認しに行きました。ここは震災前に耐震診断と耐震改修を行ったところですが、居間の床が傾いていて切土と盛り土部分の境部分に当たり、不同沈下が生じている様です。同じ地区に住む妻の姉夫妻の所へ立ち寄り、次女の結婚祝いをお届けしました。

今日も方々から安否確認の電話が入り、互いに無事を喜びました。また震災前に工事をしたお客様宅を訪問し、震災による被災状況を確認したり、自宅の屋根瓦の修理の手配をするなど、仕事関係に時間を費やしていました。岩切の高橋さんから応急危険度判定士により赤紙を貼っていたいただいたとの連絡がありました。

3月29日(火) 晴れ 最高13.6℃ 最低マイナス0.4℃

「汚染水2号機建物外に 地震保険壊滅地域は満額に 東北新幹線復旧来月下旬 被災住宅再建へ一歩 亜鉛生産7割減銅は4割減 ニッポン支援物も心も 原発不安「緑の党」躍進 首相「震災人事」連発 東北くらいついた大垣日大7―東北0 浸水の範囲500平方^キ 被害面積宮城が最大 原発選択後悔の念 「娘の車に給油を」車内にストーブ 摂取制限の翌日自殺 死亡10,901人 安否不明18,982人」(朝日新聞見出し)

高砂市民センター避難所へ出たり入ったりしていました。今日の午前中で町内会の炊き出し支援は終了となり、私も事実上役割を終了しました。電気が回復して以降三町内からの

避難者の多くは自宅に戻り、新たな生活を始めています。

避難所で生活を続けている人たちは、住む家を失った人たちでした。間もなく4月に入ると新年度の町内会総会を開催し、地域活動を始めなければなりません。高砂市民センターの避難所の状況と地域での立場を考え、この場を離れる時期が来たことを感じました。最後の炊き出し支援をしていた北福室第一町内会の佐藤会長とお会いした際に、今年の高砂夏祭りは、企業からの協賛金もこの大災害時にはとてもお願いするような状況下ではないので、中止したほうが良いのではないかと提案しました。

町内会会計の小幡さんから総会資料の平成22年度決算書、平成23年度予算書(案)の原稿をいただきました。出勤中の自衛官の彼は、今日が空け番で帰宅することができたと語りました。大変な時期にがんばって作成してくれたのだと分かりました。他の役員分の資料も作成されており、いつも仕事に気配りが行き届いていて、感謝しています。監事の下山さんへ資料を届け、総務部長の高橋さんに総会資料作成状況を確認し、まとめりしだい連絡をくれるようお願いしました。大震災後の総会だけに、会長の全責任で総会を進める予定です。

旧岩切郵便局の今後の推移について、仙台市博物館の学芸員、水野さんへ連絡しました。その後水野さんから岩切周辺の文化財の状況についての情報をしりたいとの電話があり、

岩切の知人の丸藤さんを紹介しました。

自宅で宿泊者が使用した布団を押し入れに収納したり、玄米を一袋精米したり、破損した家財の修理など自分のことに時間を費やしていました。近くのホームセンターは被災して開業していませんので、荒井のホームセンターに行ってみましたが、入り口でわずかな商品を扱っているだけで、店内は被災した建物の改修中でした。その帰りに軽トラックの助手席に乗っていた妻を壊滅的な被害を被った新浜、藤田方面へ案内しました。

被災した自宅の修理に当てるため、妻と銀行へ定期預金の解約に行きました。

所有するアパートの入居者から、凍結により給湯器が損傷し、入浴できないのでその分家賃を下げてほしいとの要望がありました。原因は水抜きをしないでの入居者の長期不在にあり、災害時のことなのでその管理責任は問わないし、機器の修理は大家が負担しますが、家賃の引き下げには応じられないことを理解してほしいと説明し、帰っていただきました。乗用車流出のため、月極め駐車場の解約がありました。

仕事依頼先に仕事を再開したことの連絡をしました。

夕方、和田の従弟から依頼されていた和田新田5軒分の罹災証明用写真を彼に渡しました。

次女は自転車で多賀城の病院へ週2回勤務予定。保育所も水没したので、その際は妻が孫の子守。

夜、震度4の強い地震があり、今夜から1階の母が使用していた部屋を寝室にしました。

3月30日(水)曇り時々小雨 最高13.0℃ 最低1.4℃

「汚染水タンカーに 対策チームに米参加 92.4兆円予算成立
被災地の金融機関支援 海静かな汚染ヨウ素放水口一時1,850
倍 16^キ地点59倍 土壌からプルトニウム 福島原発人災の影
セシウム暫定基準維持 出荷制限いつ解除 資金困難企業も人も
がれき「阪神」以上に難題 避難所インフル感染 「自宅避難者」
も救う 死亡11,102人 安否不明18,382人(朝日新聞
見出し)

朝、6時半過ぎに下山監事宅へうかがい、会計資料を渡し
て災害直後の総会の事業を説明し、決算書に捺印をいただき
ました。もう一人の監事である高橋さんとの連絡がつかず、
知人の知人というつながりで民生委員の一人から中野栄の
実家へ行っているとの情報を得、逆ルートで連絡を入れ、3
0分後に自宅に来てくれました。下山監事同様会計資料を渡
して事情を説明し、その場で署名捺印をいただきました。二
人の監事へは1日経過しても疑問点の連絡がなければ問題
なしとして、次の印刷に進むことを伝えました。数時間後再
び高橋監事が私の事務所を訪れ、予算書(案)の金額に間違
いがある事の指摘を受け、原稿を訂正していただきました。
よく物事に精通し、しっかりとその役目を果たしてくる誠

実な方だと感心していました。こうして総務部長の総会資料
原稿の仕上がりを待つばかりとなりました。

今朝町内会役員たちが町内のゴミ置き場に出されたテレ
ビや電気機器処分のため、仙台市のゴミ置き場(日出町公園)
へ軽トラックに載せて運んだ際に、誤って家電機器が崩れ、
乗用車にぶつかり、車体に傷をつけてしまったことが報告さ
れ、その修理費用約2万5千円を町内会で支払ってほしいと
の要望がありました。

福室のガソリンスタンドは、給油の為国道45号線は自動
車の長い行列ができていて、まだ解消には至っていません。
知り合いのプロパンガス販売店から灯油3缶購入。自宅と
販売店は蒲生にあり、自宅は流出してしまいました。自宅と
少し離れた工場はかろうじて無事でしたが、そこは電気の回
復が遅れていました。

岩切の高橋さんから又電話があり、旧岩切郵便局の解体は
4月4日月曜日から行う予定であることが伝えられ、用件は
被災証明の写真を撮ってほしいとの要望でした。建物の解体
とはずいぶん早い時期の話なので、災害時に入り込む悪徳業
者などではないとか解体費用の見積書は提出されているの
かなど、気がかりな点が多くありました。何にもまして被災
状況の調査する時間があまりにも少なすぎました。

解体予定時期の連絡と調査時間をできるだけ確保するた
めの手段として、行政の支援がどれだけできるかを仙台市博

物館の学芸員水野さんにお話ししました。

撮影を始める前の気がかりな点を所有者の三浦さんにかがいました。それによると測量士を通してこれまで建物の修理に携わってきた業者なので、身元が分かっている事、道路に面し、郵便局に隣接しているので、倒壊する建物として立ち入り禁止の赤紙が貼られた以上、集会所を管理するものとして迷惑がかからぬよう早急に解体を決めた経緯を高橋さんが説明してくれました。月曜日に解体するのは屋根部分からということ、内部解体はまだ予定が立っていないというお話です。解体を前提としているので、調査のための部分解体と調査のための家具を移動する事などを了解していただきました。また教会のものは土日で三浦宅に移動する予定なので、その後のものは何も必要ないので自由にして良いというお話もいただきました。今後解体業者から作業のスケジュールをいただき、迷惑のかからないように調査を進めることで了解をいただきました。

夕方、水野さんから電話があり、山形大学の永井康雄先生やその他の関係者が調査を希望し、私に合わせて日程を調整するとのことでした。

被災状況の撮影は見納めの姿の写真撮影でもありませんでした。状態は非常に悪く、住めるような状態ではありませんでした。2階の戸袋の雨戸を引き出せるように部分解体し、9枚の雨戸を引き出してみました。最後に引き出した壺と墨

で書いている板戸に、大和田敦之という名前があり、三浦さんに心当たりを聞くと、ご主人の叔父で東北大学に進学し、ここに下宿しており、現在も健在だとお話してくれました。ここから雨戸を使用していた時期が分かります。このように避難所運営後にわかeni旧岩切郵便局の件が忙しくなりました。

JPSから紹介された(株)写真弘社へ、ポジフィルムが届いているかの確認と作品の扱い方法について電話で確認しました。ポジは届いている事、作品数は4枚、プリントのチェックはできないので直接JPSへ届けていただく事、裏に張りつける表題はFAXで送信すれば良い事、ポジ原版とプリントの請求書は後日郵送されること、プリントはクリスタル仕上げでお願いしたいことを双方で確認することができました。

ヨドバシカメラ仙台へ仕事で使用していたデジタルコンパクトカメラの修理を依頼しました。妻は授業の講義録音のための録音機を購入したいと同行しましたが、担当者から周囲の音を集音してしまうので、目的に使用するのは難しいという説明を受け断念しました。



2011.3.30 旧岩切郵便局外観



2011.3.30 旧岩切郵便局 2F 内部



2011.3.31 関上大橋北から荒浜方面



2011.3.31 関上大橋北から藤塚方面

3月31日(木)曇りにわか雨 最高11.4℃ 最低3.5℃

「東電「1〜4号廃炉」被災市町村合併促進 「フクシマを救え」世界から 海水からヨウ素3,300倍 女川立地に救われる 汚染水どう処分 被災地腐心の統一選 大動脈は復旧でもその先が ガソリン店へ車列2・5⁺ ビール夏の供給不足懸念 牛乳品薄解消メドなし 携帯4月復旧目指す 関係国会合リビア政権移行促す シリアで内閣総辞職 復興へ資金繰り難題 彫刻家佐藤忠良さん死去 死亡11,258人」(朝日新聞見出し)

朝5時40分、海岸通りを軽トラックで荒浜方面へ向かいました。両側の被害状況は壊滅的。特に道路より海岸側の被害は甚大。乗馬クラブの建物や特別養護老人ホームの建物は残っていましたが、防潮林の松林はほとんど残っていませんでした。名取川河口付近の藤塚地区は壊滅してしまいました。閉上の右岸堤防のあんどん松は、対岸からですが残っていました。閉上。閉上大橋は点検の為通行止めで、渡ることは出来ません。名取川は何もなくなり、さっぱりしていて静かで、たくさんの水鳥が川面にゴマ粒のように点々として浮かんでいました。水田には泥と松林の松と乗用車とおびただしい破壊物が散乱していました。

妻が次女と孫娘を乗せて高砂団地の銀行へ税金を支払うに行ったとき、駐車場に止めてあった乗用車にエンジンをかけた途端、助手席のエアバッグが開き、松森のホンダの代理

店へレッカー車で運ばれたことがわかりました。地震前からエアバッグのランプの表示が点灯していたので、もしかしたらそのせいかと思いましたが関係はないようです。とにかく早急に修理しないと軽トラックの燃料が尽きかけているので身動きがとれなくなってしまうと。夕方周辺のガソリンスタンドを回ってみましたが、すべて閉店していました。明日は早朝並んで給油しなければなりません。

博物館の水野さんから連絡があり、永井先生の都合との調整で旧岩切郵便局の調査は6日の予定となりました。時間は連絡待ち。

以前支援物資の提供の申し出がありました日本電気計器検査所からの物資が届いたとの連絡がありましたので、全部いただき、軽トラック2台分を避難所に運搬しました。

総務部長から総会資料が届いたので、明日9時半より福室市民センターで副会長と印刷予定。

夜、余震がまだ続いています。

4月1日(金)晴れ

「復興支援月内に特別立法 福島第一原発汚染水処理仏が協力 冷温停止阻む汚染水 素材の供給大幅減 ホンダ11日生産再開 計画停電4・5月回避したい 仙台イチゴ作れない」(朝日新聞見出し)
軽トラックの燃料が少なくなつたので、ロコミにより国道45号線沿いの出花モービル石油のガソリンスタンドへ給

油のために早朝6時から並びました。私が着いた時は中野栄駅から産業道路への通りには車の列はありませんでしたが、脇道に中野栄駅までに相当する長い給油を待つ車の列がありました。開店の7時に給油所の店員が来て、「ここに並ばないで、ローソン側に並んでください」と、車の列に振れ回っていました。隣接する駐車場等の出入りに迷惑がかかるからという理由からです。次々と後ろの車が列を離れていきました。私も後を追っていわれたとおり並び直しました。だいぶ後列になってしまいましたが、確実に給油できるのでその時を待ちました。8時半頃に3千円分の給油を済ませ、自宅に戻りました。これで一安心です。

次女が出勤なので妻は孫娘の子守をし、孫はテレビのアニメを見ていました。そこへ宅配便で大きな段ボールを二つ届きました。一つは京都の入学許可が下りた京都造形大学の教科書です。もう一つには千葉県柏市の妹が災害見舞いとして送ってくれたたくさん文旦が入っていました。

9時より福室市民センターで副会長と平成23年度町内会総会議案書630部を印刷し、明日町内の集会所でおこなう製本作業の準備をしました。又4月期町内会拡大役員会資料を作成しました。

ホンダの代理店の担当者から、シビックの修理についての連絡がありました。やはり水に浸かったせいで、電気系統がショートしていることがわかりました。部品を取り換えなければ

なりません、それでも今後同じようなことが起きないという保証は出来ないとの説明でした。しかし修理をしなければ使用できませんのでお願いすることにしました。

昨日、メガネのフレームが破損してしまい、仙台港の店は被災してしまつたので困っているところへ、小鶴の「眼鏡の式萬円堂」が営業しているという情報を得ました。夕方、店でレンズはそのまま使用し、フレームを新しくしました。

4月2日(土) 晴れ

〔復興財源と野党で協議 大相撲八百長関与13人「追放」 福島第一原発樹脂散布開始 原発鎮静化長い道のり 日本製品風評被害防ぐ 新車販売35%減 大連立気運再び

朝5時半に起床し、閑上の被災地に向かいました。閑上大橋が通れないので、仙台バイパスを通り名取市へ。空港アクセス鉄道沿いに東へ向かいました。手前の名取駅付近から左折する箇所を見過ごしてしまい、大きく迂回してしまいました。エアリ付近は道路の両側に泥が付着している程度で、被害はあまり見られなかったが、海岸線を閑上の方へ戻るに従い、被害の爪痕は目立ってきました。早朝なので最初の車両進入禁止を突破し、次の車両進入禁止を左折し、軽トラックを路上駐車しました。そこから徒歩で閑上の町へ進んでいきました。道路のゴミは通行できるよう両側に撤去されてありましたが、町が大きかっただけに破壊された閑上の町は言葉

になりませんでした。破壊された跡は全く手つかずで、片付けようがないように思えました。壊滅したという言葉しかありませんでした。蒲生と状況は似ていました。海岸線はどこまで行っても壊滅状態は延々と続き終わることはありませんでした。

8時過ぎに帰宅し、朝食をとり、9時から集会所で役員、班長たちが集まり、平成23年度町内会定期総会議案書の製本をおこないました。全部で630部を各班に部数を配分。作業は約1時間で終了しました。

破損した瓦屋根の修理を依頼した業者が来て、破損した瓦を撤去し、雨漏れを防ぐためにブルーシートをかけてくれました。

町内の若い母親が高砂中学校災害対策本部の要請に応じ、子供たちが使用した二つの赤いランドセルを私に届けてくれました。温かい厚意に感謝し、高砂中学校の対策本部へ持って行きました。

息子の中学校時代の友人が自転車で見舞いに来てくれました。これから自転車で近くの被災地を回ってみたいと帰って行きました。

日中、事務所前と自宅前の下水が吹き上げて溜まった泥を撤去し、時間をかけて水道水で洗浄しました。事務所の玄関の土間も自宅の駐車場も水洗いしました。事務所の床も拭き掃除をしました。少しずつきれいにしていって、しだいに落

ち着いた生活を取り戻したいと思います。

19時から集会所で4月記定例拡大役員会を開催しました。

4月3日(日) 晴れ

〔復興具体化手さぐり 福島原発2号機施設に亀裂確認 海洋の汚染対策急務〕

朝から事務所の倉庫の片付けを集中して行いました。カタログや現物見本、部材、木片その他を時間をかけて、残すものと廃棄するものとに分別し、災害ゴミとして仙台市の災害ゴミ集積所となっている日の出町公園へ運んで処分してしまおうと考えたからです。その量は軽トラの荷台に積み切れないほど山になりました。そして長い行列に並んで長時間その順を待ちました。しかしながら入り口で企業ゴミと判断され、受け取りを拒否されてしまいました。災害時にも特別処置はありませんでした。仙台市の環境衛生局で処理方法を聞いてみたらよいと促されましたが、そこだろうかってもマニフェストに従って専門業者に委ねるしか方法はありませんというのが回答でした。そして苦労して分別した廃棄物は持ち帰るしかありませんでした。仕方なく事務所の前へ下し、シートをかけて置きました。

遠方の方々の親戚から支援物資や見舞い品が届きました。私の方から被災地の届け先に届けてほしいという送付先からの依頼の品が一緒に入っていましたのでそれぞれに届け

ました。また見舞いにわざわざ訪ねてきてくれた人たちも多
くありました。またこちらからも被災した遠い親戚の見舞い
に出かける日々が続いています。

町内の知人が高砂中学校の制服を二組、避難者への支援助
資として寄せられましたので、高砂中の災害対策本部へ届け
ました。

息子がホンダの代理店の担当者としビツクの件について
電話で話をしてくれたようです。それによると塩水による電
気系統がやられており、エアバッグの修理だけで50万円か
かり、その他の修理をすれば100万円程度となるとの事。

それでもすべて問題は解消したわけではなく、不安を抱え
たまま走行するようになり、このような状況から乗り換え
の方が良いのではないかとという結論でした。安い軽自動車に乗
り換えて、今後は出来るだけ出費を少なくすることを考えな
ければなりません。

4月4日(月) 晴れ

〔節電促進へ規制緩和 福島第一原発避難区域修正へ 汚染水流出
防止に特殊樹脂 地震保険支払50万円 統一地方選防災・危機管
理競う 就職活動目算狂う〕

今朝6時起床。避難所運営に当たってからは、この時間に
起床するのが習慣となっていました。七北田川に沿って堤防
を上流へと向かい、福田大橋を渡って対岸を砂押の方へ下り

ました。そこには下流から津波に流されてきた平屋の住宅が、
川のほぼ真ん中に建物の上部を水面から出して沈んでいま
した。少し上には橋の橋脚補強工事でたくさんの鋼矢板が打
ち込まれていて川幅が狭くなっており、上流に流されるのを
阻んだようです。朝日が当たる穏やかな水面に飛び出た住宅
の無残な姿の周りには、たくさんの水鳥が泳いでいました。

今日は県外の方々の親戚から送られた支援助物資を持って
七ヶ浜に住む親戚たちを見舞いました。途中の高台の家並は
大きな被害はないように見えました。細くくねった急な坂
を海へ向かって下りてゆくと、左右には無残な光景が広がっ
ていました。海のすぐそばに住んでいました一家族の家は、
敷地だけ残してすべて流されてしまい、高台にある小学校の
体育館で避難所生活を送っていました。幸いにも家族は無事
でした。又もう一家族の家は少し高台にあり、住まいの足元
まで津波が押し寄せましたが、かろうじて被害を免れ、見覚
えのある住まいが遠くに見えました。谷に当たる山あいの部
に押し寄せた津波はかなり高いところまで達した事が被災
の状況からはつきり分かりました。今日は留守とのこととし
たので、見舞いを託し帰宅しました。途中菖蒲田浜まで行っ
てみましたが、記憶にある美しい松林のある海水浴場の面影
はどこにもなく、目の前には惨憺たる光景がありました。
妻と銀行に行って預金を引き出し、その帰りに高砂団地の
和菓子屋の隣の自転車屋さんから、妻の新しい自転車を買

ました。息子から送られた金具で自宅2階の寝室にあるタンス三棹を連結し、耐震補強用ベルトも復旧しました。3月の地震で破壊されてしまったのです。次女が今度入園する予定の孫の幼稚園へ入学申請書類を取りに行きました。

ホンダの代理店の担当者へシビックの修理中止と軽自動車購入の変更を伝えるために電話をしましたが、今日と明日は休みで連絡することはできませんでした。

岩切の高橋さんから電話があり、今日から旧岩切郵便局の外部解体が始まり、内部解体は7日からバックホウで解体することが伝えられました。この件について博物館の水野さんへ連絡。永井先生をはじめとする調査員数人が6日の9時現地集合することになり、その後永井先生から直接電話がありました。先生から所有者に解体しないようお願いするとか、解体材をどこかに保管しておくなどのお話がありました。関係者の要請で既に解体始まっており、とてもこれを止めるような状況にはありません。

サニーハイツ高砂町内会の玉田会長から電話があり、マンションが明日倒壊の恐れがある建物として赤紙が貼られるという話をうかがいました。それに伴い町内会を解散するという旨を高砂地区町内会連合会事務局へ連絡したとのお話でした。寂しいというしありませんでした。解体か大規模改修補強かについては、入居者の中で話がまとまっていないらしく、改修を望む住民たちの団体が結成されているとも人

づてに聞いていました。

4月5日(火) 晴れ

「ソフトバンクの孫正義社長が災害支援として100億円寄付+今後現役中の報奨金も寄付。ゴルフの石川遼も今年の獲得賞金全額を寄付 福島第一原発は昨夜から多量の低濃度貯水を海に排水中」

八木山方面からの住宅補修工事依頼があり、現場確認に出かけました。屋根瓦が落下し、その復旧工事です。工事関係は震災によりどこでも応急的な仕事依頼で逼迫しており、材料も職人もまったく不足していて、専門業者はどれも引き受けるところがありません。見通しが立たないのです。飛び込みの業者の見積金額が高いと理由でこちらに依頼されても、対応のしようがないのです。期待した明確な回答を得られない客は離れていきました。

旧岩切郵便局の解体が始まっていますので、今日はゆっくりと調査ができるものと思い、先日撮影した罹災者証明用の写真を三浦さんに届けながら現場へ行ってみました。外部足場を組み始め、内部の家財はゴミとしてダンプで運んでいる最中でした。玄関の屋根は既に壊されており、状況は一変していました。明日は瓦を下すための重機を入れる予定だとうかがいました。博物館の水野さんに報告しました。夜、調査をする人たちへ渡す資料を準備しました。

妻の実家の妹夫妻が見舞いに来てくれました。近隣の親族たちへ見舞いを届けて回りました。先日従弟の親戚が車椅子

を借りたことへのお礼に来てくれました。

DKの温水暖房器が故障し、設備業者が新しい暖房機の工事に来てくれました。これで快適な生活ができることになりました。自宅の門の床タイルのモルタル充填を行おうとしましたが、製品が品切れで、ホームセンター2カ所を回り入手することが出来ました。

昨日からガソリンスタンドの給油平常に戻りました。同じ木材店が営業を始めましたが、こちらの方は構造用合板が全く品切れとなっています。

次女が病院へ出勤し、妻は孫の子守。近くのあけぼの幼稚園に行くことに決めようです。園庭で遊んできたとの事。余震がまだ続いています。小さな揺れでも孫娘は食卓の下へすぐ避難しました。

4月6日（水）晴れ

8時30分頃旧岩切郵便局へ着きました。既に重機が現場に入っていました。調査関係者は9時集合になっていました。交通渋滞がかなりひどく、到着する時間はまちまちでした。永井先生、仙台市教育委員会文化財課、仙台市博物館の水野さん、宮城歴史資料保全ネットワークの人たちと私の総勢9人。現場に来て何をやっていいのか、誰が中心となって調査を進めたらいいのか戸惑っている様子でした。参加していた工学博士が永井先生に、あれだけ調査して何を調査す

るのかと問いかける状態でした。やむを得ず私が、これまで目視による調査だった事、今回は解体調査である事、所有者からは持ち帰っていいと許可が出ていることを説明しました。そして襖の下張が破れたところから既に見えている事などをつけ加えました。早速調査員は襖の下張に興味を持ち始め、現場で剥ぎ取ろうとしましたが、そっくり持ち帰って、じっくりと解読したほうが良いという意見があり、まずは必要なものを安全な外へ持ち出すことを提案しました。2階からたぐさんの襖が外に出されました。郵便局の電話交換室の文字が入ったガラス戸は破損する危険性があるため、襖の上に乗せました。「必要なら私の軽トラックで運びますよ」とお話ししました。こうしたたぐさんの襖を積んで東北大学東北アジア研究センターの資料室へ運んで行きました。

永井先生はケヤキの板戸や引き出し、私が外した懸魚（げぎよ）屋根の破風と破風の間、据え付けてある彫刻、泥のついた玄関飾り、玄関飾りの原寸を起こした図がある畳下地板等をバンに乗せました。こうしてたぐさんの人たちの手に触れられて調査はすべて終わりました。あとは解体処分されるだけです。アルミ脚立を取りに現場に戻った時、三浦さんにお会いし、これまでのお礼を述べました。帰り際に自宅から見た旧郵便局の写真を撮って欲しいといわれました。縁側から見た光景が一番好きなのだと話してくれました。

疲れたので自宅で一人休んでいると、アパートで独り暮ら

し、東北厚生年金病院へ避難した電動車椅子の男性のお兄さんが訪ねてきて、今、長町病院から元のアパートに帰ってきたと言います。菓子折りを持ってお礼と報告に來られました。こうしてそれぞれが少しづつ日常生活を取り戻していくのでしよう。今日はゆっくり休みたいです。

4月7日（木）薄曇り

5時半閉上へ向かいました。今しかできない事をやるべきだと思ったからです。仙台バイパスの名取駅へ向かう交差点から閉上方面へむかいました。海岸道路へ近づいたとき、この前までは車両進入禁止の立て看板だけでしたが、早朝にもかかわらず赤い回転灯のパトカーが検問をしていました。手前に軽トラックを駐車し、徒歩で先日と同じ道を海の方へ進みました。数日間でかなりの建設機械が入り、片付けが進んでいました。碑が建っている小高い日和山の階段を上りますと、この間来たときには無かった鎮魂の祈りを記した白い小さな板が2カ所に立っていて、仏像の絵や花や果物が供えられてありました。

今日のもっと奥へ入り、閉上朝市が開かれていた場所へ行きました。そこは山のようにガレキが積み上げられています。海岸へ向かう橋がありましたのでその場所だとわかりました。橋の上から見たものはたくさん破壊された乗用車が整然と並んでいる光景でした。そしてその向こうにはいくつ

かの大きながれきの山が見えました。さらにその後ろには朝日に光る穏やかな水平線の海が見えています。帰りの仙台バイパスは大変な渋滞でした。

アパートの入居者から水道が出ないという連絡がありましたので、通水方法を説明しましたがやはり出ないとの事。行ってみると元栓が閉じていました。そして「妻がここは津波が怖い」という理由で賃貸契約を打ちきり、その後退去したいという事を伝えられました。2階のこの部屋からは七北田川が目の前に見え、3月11日は恐ろしい光景を見ていたのでしよう。

自宅に戻ると同級生の女性建築家が見舞いに来てくれました。地震発生から今日までのことを互いに語り合いました。彼女の実家は石巻市渡波なので様子をうかがうと、幸いなことに家が残ったと話しました。

宮城県建築士仙台支部の女性建築士から応急危険度判定士として女川に行きませんかとの要請の電話がありました。が、災害時からずっと地域活動に携わっていましたので疲労が蓄積しており、気持ち的にはとても協力できる状態でなく、お断りしました。震災後間もなく妻と私に同じ要請がありましたが当時もそれどころではなく、お断りした経緯があり、お断りしたのはこれで二度目でした。応急危険度判定士は、研修を受け登録した建築士が、震災時に被災建築物の被害・案性等について応急的に判断し、「危険」「要注意」「調査済」

の三段階で判定するものです。妻と私はこれに登録しており、過去には岩手・宮城内陸地震時に派遣の要請を受け、栗原市で診断をおこなっています。

仲人をしていただいた恩師の1周忌の法要の連絡があり、4月17日11時より青葉区の通町の菩提寺でおこなわれる予定です。同じ17日に叔母の1周忌の法要が予定されていました。そちらは妻に出席してもらおうことにしました。

ホンダの代理店の担当者から電話があり、こちらへ伺いたいとの事。シビックを修理した場合の見積書と修理後の不安についての説明を受け、軽自動車ホンダライフの見積書をいただきました。早速社有車として契約しました。早ければ5月の連休明けの納車となりそうです。

夜、妻から実家の妹から電話があり、これまで通り現在の場所に住み続けることにしたという話を聞きました。めでたし、めでたし。

今日はいろいろな雑用をこなし、だいぶ夜も更けたので焼酎の水割りでも飲んで寝ようと、冷蔵庫から瓶を取り出し、コタツにグラスを持ってこようとしたりした時、大きな余震が発生しました。23時32分頃宮城県沖を震源とするM7.4の激しく突き上げるような地震でした。食器が床に落下して壊れ散乱しました。棚からはいろいろなものが落ちました。それでも停電にはなりませんでした。外に出ると暗い中にたくさん照明が見えました。テレビで津波警報が出されました。

もう少しテレビの情報を見ていたかったです。地域の安否確認に行かなければなりません。隣のアパートの老姉妹がアパートの前でどこに避難しようかと佇んでいました。自宅向かいの貸家に住む高齢者の男性が自転車で避難しようとして走り出していくのに声を掛け、避難先を聞くと東北厚生年金病院と言ったので、先ほどの老姉妹に病院へ避難するよう促しました。私は車が無いので送り届けることもできません。二人で杖をつきながらゆっくりと病院へ向かいました。東京の長女から安否確認の電話が入りました。別のアパートに住む電動車いすの男性のところへ行きましたが、玄関には錠が掛けてあり、何度も窓越しに声を掛けましたが返事はありませんでした。もしかすると覚悟を決めてロックアウトしているのかなとも考えたりしました。しかたなくそこから町内の安否確認をしながら歩き回りました。車で避難する人たちが暗がりに消えていきました。自宅にいて思っていた妻はどこに行ったのか分かりません。自転車もありませんでした。自宅隣りのアパートの駐車場には、もう一人の若い障害者をもった男性の乗用車しかありません。次女たち家族も車で避難したようです。

高砂市民センターの避難所へ状況を確認しに向かいました。それほど多くはありませんでしたが、次々と避難者が入ってきました。避難者を迎える準備として、宿直と共にホールに畳を敷いたり、受付にあたったりしていました。人数的

には多くはなかったもので、次に高砂駅前生協の屋上へ行ってみると、車の中に避難者の人たちがいました。東北厚生年金病院へ行ってみたら、避難場所として2階の廊下と会議室を解放していました。多くの顔見知りの人たちから声を掛けられました。

自宅へ戻る途中、小幡さん宅の前で妻に会いました。自転車で町内の一人暮らしや老人世帯などの安否確認をしていたとの事。先ほど玄関がロックされていた障害のある男性のヘルパーの人たちが、リモコンスイッチの鍵を取りに来ました。その入居者から大家さんから鍵を借りに行つて欲しいといわれたことを話しました。不思議に思い、方法を尋ねると、窓越しに会話ができたと言いました。玄関前でスイッチを何度押しても開錠は出来ませんでした。シリンダー錠の鍵を持つてこようと考え、取りに自宅へ戻る途中で開錠できたという声が聞こえました。男性はベッドに横になって笑顔でいました。窓越しに私の声が聞こえてはいましたが、返事は私の耳に聞こえなかったようです。

2度ほど七北田川の水位を見に行きましたが、変化はありませんでした。再び高砂市民センターの避難所へ戻りました。やがて津波警報が解除となり、避難者の一部は帰宅し始めました。国道45号線北側は停電との事。時間は深夜の1時を回っていましたので私も帰宅しました。東北厚生年金病院から戻つたと、老姉妹の一人が自宅に来て報告してくれました。

自宅の2階も事務所も11日と同様散乱していましたが、とにかく眠りにつきました。

4月8日(金) 薄曇り 天候はだんだん下り坂

宇都宮の長男から安否確認の電話がありました。熊本、福岡とまわり、昨日宇都宮の本社に戻つたとの事。

朝食が終わり次第、事務所の片付けを始めました。午前中で三室完了。自宅2階の倒れたタンスを立て直しました。

午後南小泉の仲人の奥様から電話があり、昨夜の強い地震により、自宅に被害が生じたので見に来てほしいとの要請でした。とにかく現場を見なければ判断がつかないので、電動工具や工具一式を軽トラックに積んで現場に向かいました。和室が土壁なので亀裂が入っていました。特に危険なのが北側の倒れかけている高さ1.8m、長さ1.8m、2mもあるブロック塀でした。重機が入らない場所なので、すべて手仕事でおこなわなければならぬ為、時間と費用が掛かります。後日業者に見てもらい見積もり書を作成しなければなりません。帰りに、お見舞いにいただいたというシューマイ2箱いただいたり帰りました。

ホンダの代理店の担当者から電話があり、ナビゲーションの機器をシビックからライフへの移動は無理だとの事、ETCについても同様だと説明を受けました。その分金額がかさみますがお願いいたしました。

深夜に大きな地震があり、就寝が朝方になったので少々疲れていました。深夜停電となり、就寝。まだ余震は続いています。

4月9日（土）小雨のち曇り

〔7日深夜の余震で東北400万戸停電〕

朝方電気が回復し、起床すると居間のテレビと照明がついていました。

妻は東北福祉大のガイダンスが11時から始まるので、軽トラックで東北福祉大まで送り届ける。妻の姉夫妻が自宅に伺いたいとの電話がありました。妻が不在なので明日の午後にしていただきました。

仲人の奥様から電話があり、都市ガスがまだ復旧しないとの事なので、卓上コンロ用カセットボンベ8本持って行きました。留守のためポーチに置いて帰りました。

岩切の三浦さんへ旧岩切郵便局の写真をお届けする件について解体の様子を見に行きました。解体は完了しているのではないかと思っていました。今日は庭木の移植を行っていたようです。建物はまだ半分ぐらい残っており、まだ解体中でした。

岩切へ行く途中の国道45号線の北側は7日の余震で停電となり、信号が消えている状態でした。利府街道から岩切小学校の方へ左折し、岩切の今市橋にかけての通りは、数日

前よりかなり沈下が激しく、アスファルトの断裂やマンホールなどの突起物などが通行しにくくなっていました。岩切小学校の梅の花が満開でまぶしく見えました。

写真仲間が見舞いに来てケーキをたくさんいただきました。災害状況と公募展入選作品についてなど写真の話題で盛り上がりました。よく来てくれました。

先日まで宿泊していた叔父が事務所に来て、孫ヘイチゴと衣類を紙袋に入れて持って来てくれました。

集会所で役員の皆さんと共に明日の町内会総会準備。委任状の枚数を確認しました。副会長は葬式の為総会欠席の連絡がありました。会計の小幡さんは自衛官の職業上総会出席は無理。会計報告は私がおこない、予算案は総務部長が行う予定。震災から日が浅いので出席者がどのくらいになるのか見当が付きません。夜、副会長から電話があり、葬式は延期され総会に出席の予定となりました。

今日現場確認した中嶋宅の展開図、平面図作成。

4月10日（日）晴れ 久しぶりの暖かい日です

総会の準備の為、8時半頃集会所に行く。副会長も一緒に。会場設営し、10時の開会を待ちました。役員はもちらんですが、予想に反して思いのほかたくさんの方が出席してくれました。町内会に対する関心の高まりと期待が寄せられたのだと思います。総会の議事は順調に進み、予算案

のところ、いろいろな意見が出ました。繰越金がそれほど多いのであれば会費を下げるとか1年間会費をなしにしたかどうかなど、極端な意見なども出る始末でした。たった30万円と40万円の繰越金が多かっただけの話です。たぐさんの意見が出たという事は、意見が出しやすいい雰囲気の内会であるという事もいえます。参加することで自分の町内会だという意識が高まります。まとめていくには大変さがありますが、結構な話ではないかと思えます。こうして町内会も変化していくでしょう。閉鎖的な町内会とは異なり、新しい人たちの力が加わる可能性を秘めています。やるべきことを淡々と進めて行けばいい。それにしても今回はいつもの総会より遥かに盛り上がりました。今年1年は震災の影響で関連するイベントや祭りなどの行事は中止となるでしょう。

帰りにみんなで八鍬八幡神社に立ち寄り、鞆堂内のお宮が地震のため移動したのを、氏子たちが力を合わせ元の位置に戻しました。倒れた石灯籠は4月15日の例大祭まで復旧することを申し合わせて帰りました。

総会終了後16日の新班長の役割説明会の案内を出すのをすっかり忘れていたのに気づき、急いで配布して回りました。

13時半、妻の姉夫婦が来て写真展コンテスト入選祝をいただきました。又その長女夫妻が結婚の内祝いを持って来てくれました。いつ見ても新婚さんはいいいものです。

次女が車を買ったので車庫証明をしてほしいと電話がありました。ニッサンの中古車だそうです。ホンダ車は入手までの期間がかかるらしく、千葉からの中古車にしたと語りました。

夜、次女が来て長女から届いた私たち二人への入学祝を持ってきました。妻にはパイロット、私にはパーカーのボールペンでした。とてもうれしい。応援ありがとう。

7日の余震の被害は思いのほか大きく、各地で大きな影響がありました。近くの高砂駅前生協の店舗でも鉄骨がむき出しになったり、天井が落下するなどの被害があり、店の一部が使用できなくなりました。

4月11日(月) 晴れ 夕方雨

〔東京都知事選石原氏四選 北海道知事高橋はるみ氏三選 外国人の日本脱出 集団疎開圏外に始まる 福島第一原発低濃度汚染水海洋放出完了 20⁺圈内避難勧告 被曝の危険があるため、作業時間制限 不明者の捜索できず 仮設住宅の建設始まる〕

隣の甲区町内会の会長宅へ雷神社の上納金を届け、今年の例大祭についての開催を確認すると、中止となったことがわかりました。八鍬八幡神社の倒れた石灯籠を復旧するための準備として、材料の購入と予定について氏子代表と打ち合わせをおこないました。

町内会総会も大きな混乱もなく終了し、これからは自宅の

片付けを始めようと考えました。自宅2階の本箱の本が7日の余震によって再び散乱し、本箱も移動してしまつたので、二つの本箱を元の位置に戻し始めました。ほぼ移動は完了し、もう少し調整したほうが良いと靴下を脱ぎ、足を踏ん張つた途端、左足のアキレス腱を断裂してしまいました。時間は9時半ごろです。妻が次女に連絡して、数年前に右脚のアキレス腱を手術していただいた娘の勤務する病院へ、今回もお世話になろうと話しましたが、津波で被災したため新患は受け入れておらず、病院から仙台整形外科病院を紹介されました。長期間留守にするので副会長へ電話で事情を伝え、町内会の件、神社の件をお願いしました。間もなく病院へ行く車がないだらうと駆けつけてくれ、病院まで送っていただきました。診断の結果、左アキレス腱断裂。退院は傷が落ち着けば任意。ギブスを外すのが1ヶ月後、装具を外して歩行はじめるのが半年後と説明されました。手術は明日12日予定。手続きを済ませました。10日過ぎたら仕事をどうしようか考えよう。仲人で恩師の1周忌はお断りするしかない。母方の叔母の1周忌の法要へは妻にお願いするしかない。今後の事は治療しながら考えよう。闘病日記となつてしまいました。明日朝6時採尿。11時体温測定の指示を受ける。

17時16分頃余震あり。宮城野区震度4、福島震度6弱、茨城県に津波警報、宮城県に津波注意報。周辺の電気は消えませんでした。

4月12日(火) 晴れ 仙台市桜の開花日

「福島第一原発はまだ收拾がつかず 放射能汚染による野菜の出荷停止 周囲20^キ圏内避難勧告 不明者の捜査がほとんどできないのが大きな悩み 魚、貝類、野菜の風評被害出る 原子力保安院自己評価レベル5よりレベル7(最悪)に引き上げると発表、チェルノブイリ原発事故と同じになった 原発冷却めどたらず 「計画避難区域」きのう政府発表(1ヶ月以内) 20^キ圏外でも 昨夜福島県内12万戸停電 いわき市田人町土砂崩れ住宅巻き込まれる 仙台―羽田復旧 東京―福島新幹線再開、乗り継げば仙台まで 仙台市ガス復旧20日頃」

10時30分手術。局所麻酔。午前中に手術完了。特に問題なし。手術中今回のアキレス腱の断裂は古いのではないかとこの医師からの質問がありました。普通切断部分がバラバラになるのに、今回は丸くなつていてというのがその理由です。心当たりがあるとすれば、数年前に右脚のアキレス腱断裂の際に左側も既に部分的に切断していたのではないかと思いました。

今日は孫娘の幼稚園の入園式。

14時10分余震。仙台震度4、福島浜通り、茨城北部震度6弱。まるで生きものの背中に乗って生活しているようです。もう震度3ぐらいでは驚かなくなつてしまいました。

あとがき

震災直後から約1ヶ月間の私の足取りをまとめながら、当時の事を次々と思い出してまいりました。その中で特に忘れられない記憶として残っているのは、避難所での人々の姿です。互いに語り合い又元氣におしゃべりをしている人たちは、比較的被害を受けなかった地域の人たちでしたが、壊滅的な被害を被って避難してきた人たちは、無表情でいつまでもしゃべることなくその場から動きませんでした。

それまでの私は、人は平時の時は立派な話をしていますが、いざ震災などの非常時にはきつと自分本位の行動をとるのだらうと思っていました。しかしこれは見事に裏切られました。そこでは規律を守り、互いに助け合い、譲り合い、協力する姿を見ました。感動的だったのは、乏しい食料を配布した時に、多くもらったと返しに来た人がいたことです。私は自分が恥ずかしくなりました。

災害時に、企業や人々の暖かな差し入れや援助が近くの人たちからだけではなく、全国からの無償の温かい手がたくさん差しのべられたことです。外国からも安否確認の電話が入りました。パキスタンの人たちは被災しない日本海側を通じて食材を持って駆け付けてくれました。また復旧復興に早朝から日没まで、雪の降る中、あるいは炎天下で休日返上で働いている全国から来た人たちの姿です。あの不幸な震災を通してこのような貴重な体験ができたことに感謝し、今も心の

財産として私の記憶に残っています。

2017年5月

關
係
資
料

東日本大震災時の高砂市民センター避難所運営の概要

生活サイクル

- 6:30 ラジオ体操
- 7:45 場内一斉清掃、当番によるトイレ清掃
(清掃後のホコリ除去と新鮮空気入れ替え)
- 8:30 朝食準備の為防災センターに集合
(高砂駅前、北福室第一、高砂向田町内会の輪番制、各町内から5名)
- 10:00 朝食(事前に数を申請し、各藩から食事運びボランティア)
- 11:00 防災センターで打ち合わせ会議
(館長、職員、町内会長、各藩のリーダー、館外の受給代表、県外からの団体代表)
- 15:30 夕食準備の為防災センターに集合(朝食準備と同じ)
- 17:00 夕食(朝食と同じ)
- 18:00 まで 子どもの遊び時間(うるさいという苦情の為)
- 21:00 ホール消灯
- 22:00 廊下消灯
- 1:00 屋外トイレ消灯

その他

- ・ 各部屋の消灯はリーダーに任せる
- ・ 癒しの為音楽を館内に流す
- ・ 支援物資の取り込みは避難者のボランティアによる
- ・ 伝記が使えないためコピー機の使用はできず、避難者名簿原本は1冊なので対応効率が悪い。パソコンによる受付職員検索が効率的
- ・ 都市ガスが遮断され、炊き出しの為のプロパンガス入手が困難
- ・ 賞味期限が迫った食品をいかに効率よく、バランスよく提供するかが課題
- ・ 停電の為ポンプが動かず、受水槽への給水が出来ないのでトイレが使用できない
- ・ 給水は近くの公園からおこなった
- ・ ルール違反者に対する処分について(寝たばこに対する退去処分者があった)
- ・ 時間の経過に伴い、家庭での食糧不足が生じる事による食事を求める人の増加
- ・ 避難者のその後の受け入れについて(蒲生、港、西原、和田地区の住民を優先)
- ・ 一時定まった避難場所の変更は現実として難しい(混乱と不満)
- ・ 退去者の増加によるリーダーの変更がひんぱんに起こる
- ・ 館内は土足だった
- ・ 20歳以下のボランティアはやらないようにした
- ・ 宗教上の理由で炊き出しの食事を利用できない人たちがいた

2015.8.25 作成

3月11日以降の避難及び高砂市民センター避難所運営時系列

月 日	事 項 1	事 項 2	事 項 3
3.11	東日本大震災発生 高砂駅前生協屋上に避難後東北厚生年金病院で一夜を過ごす		
3.12	高砂市民センターで菅野敏雄様家族と再会、高砂市民センターで一夜を過ごす		
3.13	高砂市民センターで避難所運営の支援を始める。収容員数約900名 荷物の運搬、窓口対応、錦戸さんと避難者名簿をパソコン入力	食糧の調達献立支援は遠藤さん 東部市民センター黒羽館長支援	仮設トイレ4台
3.14	高砂駅前、福室第一、向田町内会が炊事、運搬を輪番制で支援する 食事は朝夕2回。トイレの清掃とゴミ出しは避難者輪番制とするルールづくり プロパンガス枯渇の恐れ。避難者名簿パソコン入力始める	仙台市博物館から職員支援 食糧支援は賞味期限が迫っているものが多い	仙台バイパス以西は電気が回復
3.15	第一回避難所会議、食事運搬は地域とボランティアで行う。 15時パソコンによる避難者検索開始。避難者のグループ化 11グループを編成。リーダーを選任。	ダンロップからプロパンガスボンベ4本提供 東部市民センター黒羽館長支援 遠藤さんによる区役所からの食料調達、軽トラック1台分の乳製品を運ぶ	携帯電話充電サービス 高砂駅前周辺夜点灯
3.16	新たな避難者の受け入れはしない。但し港、蒲生、西原、和田、中野新町、白鳥地区は優先する 岩切市民センター小林館長支援。福住町より食糧支援	家庭内の食料が尽き始めている。食料だけを求める人が増加 浅見館長と遠藤さんが拙宅に1泊する。陸上自衛隊より支援物資	IP携帯電話高砂駅前町内会で使用可
3.17	遠藤さん入院。高砂小学校に医師が来ている。 区役所からの食糧調達は出来ず、以後自衛隊による食糧支給となる 避難所の食事は以後2食となる	宮ステーキ炊き出し。区役所からの食料調達は出来なかった ローソン高砂1丁目店より灯油2缶段ボール菓子提供あり 三浦源治さんより玄米2袋提供あり。北福室のコイン精米機が使用可能。	国道45号線北側の北福室の電気が回復 現在厚生年金病院を集中的に復旧中
3.18	宮城野区木須区長が来る。 トイレ清掃とゴミ搬出の順番表作成掲示 ラジオ体操、場内一斉清掃など生活のサイクルを決め掲示	宮ステーキ炊き出し（牛丼、豚汁、カレーライス）2000食 東部市民センター黒羽館長支援	
3.19	夜間館内で喫煙していた人があり退去を命じる 館内に癒しのCD音楽を流す。衣類の配布 「ルボ福室」理事長よりペットボトルの湯たんぽ提供。 港、蒲生、西原、和田以外の方は自宅への移動を促す。377人	宮ステーキ炊き出し（牛丼、豚汁、カレーライス）2000食 ずんだもち30個入り36ケース受領。田子市民センター長谷川館長支援 菅原動物病院でペットコーナー開設	地域に電気が点灯する 市民センターに水道も復旧する
3.20	札幌市より医療チーム5人応援。259人 館内に5台の携帯電話を設置	宮ステーキ炊き出し。東部市民センター黒羽館長支援	
3.21	家屋を失った人たちを対象に肌着支給のための支給方法を検討 誓渡寺中野幼稚園入浴サービス開始、館内消灯計画を説明	宮ステーキ炊き出し カレースープラーメン炊き出し	
3.22	田子市民センター長谷川館長支援。ホール消灯21時、廊下22時（半分）、屋外トイレ翌朝1時 区役所より放置自転車20台の提供を受ける。黒羽館長担当。 給水ボランティア終了。高齢者へのエレベーター使用提案。 19時から一斉に避難者の部屋替えを行った。	ラーメン屋ワンスピリット稲庭うどん1000食炊き出し ナイル（新潟より）カレーナン	
3.23	静岡市より5名の職員派遣と区役所から1名の支援。東部市民センター黒羽館長支援 鶴ヶ谷市民センター内海館長支援。 田子市民センター 館長支援。女性の病人を厚生年金病院へトラックで送り届ける	浅見館長拙宅へ1泊、年金病院からの医療派遣完了 丹野精肉店より40kgの肉の提供あり。和田新田被災者による焼き肉 中野幼稚園からの入浴サービス終了	
3.24	新グループ編成によるトイレ掃除、ゴミ搬出の当番計画作成 静岡市職員10名派遣あり4月30日まで常駐、支援物資の仕分けをお願いします 黒羽館長より配食カードについて説明	プロパンガスが無くなり、区役所からの連絡でボンベ入手 班編成替えによる各班のリーダー確認 カップヌードルミニの外部サービス	
3.25	ひと・まち財団から3人応援。トイレ掃除とゴミ担当の当番表掲示 新グループ（8）世帯数調査票収集完了 黒羽館長よりお菓子のお楽しみ袋説明 通電に伴い子どもの遊び時間を21時までとする 三町内会の炊き出し支援は避難者の方々の自主運営に委ねる事を提案 鶴巻小学校避難所閉鎖に伴い、17人が高砂市民センターへ加わる。	スポーツステージリベラ鶴巻入浴サービス整理券配布 葉書の無料配布、郵便物料金免除希望者募集 54歳の男性仙台市立病院救急センターへ救急車で搬送（今野さん胃炎）	
3.26	各班から2人ずつ炊き出しに参加していただき、自主運営への移行スケジュールを開始 午前中高砂市民センターで避難所運営（高橋） 田子市民センター長谷川館長支援	再編成以後ホールの最初の避難者は急速に退所している。 ステラパーク送迎なしの入浴サービス本日限定。男性30、女性30 県看護師協会本日限りでお断り	
3.27	高砂市民センター避難所の組織的運営は順調にまわる。もう心配はいらない。 周辺の避難所を訪問する。サニーハイツ高砂、高砂小学校体育館 岡田小学校体育館、高砂中学校。区長、副区長避難所に来る。	歯科医師当避難所へ巡回 高砂向田町内会総会議長小幡谷さんへお願いする	
3.28		自衛隊の入浴サービス、秋保温泉ホテルの入浴サービス	
3.29	三町内会の炊き出し支援終了。連絡をいただければいつでも支援に 三町内会の支援活動は終了したわけではなく、連絡をいただければいつでも支援に来る事を説明 支援活動は連絡待ちとすることで、一時引き上げることにした。	小幡会計から町内会総会資料の決算書、予算書をいただく。	

